

下度如斯候也 十六年七月五日

内閣書記官局ヨリ陸軍省へ回答

治罪法附則ノ義ニ付御問合ノ趣承知致候右ハ法制部考按ノ通り御心得相成可然ト存候此段及御回答候也 十六年七月九日

別紙

右者陸軍治罪法ニテ行刑ニ関スル事項ハ陸軍卿ニ御委任相成候得共其他治罪法附則ニ関スル事件ハ従前之通布達ヲ要ス可キモト思考ス

明治十六年七月九日

法制部

八月四日

陸軍治罪法ヲ制定ス

布告 太政大臣署名  
陸軍卿副署

第二十四号

陸軍治罪法別冊ノ通制定ニ明治十六年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

右奉勅旨布告候事 十六年八月四日

陸軍治罪法

公文書

陸軍治罪法目録

第一章 總則

第二章 軍法會議ノ構成

第三章 軍法會議ノ權限

第四章 陸軍檢察

第五章 審問

第六章 判決

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 陸軍軍人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス  
軍法會議ハ刑事附帶ノ民事ヲ受理セス但官物ノ損害ニ係ルノ賠償  
ハ此限ニ在ラス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其宣告ヲ爲ス時ハ軍人ニ限リ之  
ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ掲クル者ヲ謂フ

第四條 司令官ト稱スルハ軍團長師團長旅團長軍管司令官營所司令  
官及ヒ合團ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十八條第百



條第一百一條ノ規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス

第六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數箇ヲ設ク  
軍中ニ於テハ軍團師團旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第八條 軍法會議ニハ判士長判士理事理事補審事審事補錄事ヲ置ク

第九條 軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官三名理事理事補ノ内一名ヲ以テ判士トス但被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

| 判士長 |    |    | 判士 |   |                   | 被告人 |    |                   |
|-----|----|----|----|---|-------------------|-----|----|-------------------|
| 佐官  | 一名 | 尉官 | 三  | 名 | 陸海軍少尉准士官及ヒ同等ノ軍人軍屬 | 佐官  | 一名 | 陸海軍少尉准士官及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 佐官  | 一名 | 尉官 | 二  | 名 | 陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 佐官  | 一名 | 陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬    |
| 中佐  | 一名 | 尉官 | 二  | 名 | 陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 中佐  | 一名 | 陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬    |
| 中佐  | 一名 | 尉官 | 二  | 名 | 陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 中佐  | 一名 | 陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬    |
| 大佐  | 一名 | 尉官 | 二  | 名 | 陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 大佐  | 一名 | 陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬    |
| 大佐  | 一名 | 尉官 | 二  | 名 | 陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 大佐  | 一名 | 陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬    |
| 少將  | 一名 | 尉官 | 二  | 名 | 陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 少將  | 一名 | 陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬    |
| 中將  | 一名 | 尉官 | 二  | 名 | 陸海軍中將及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 中將  | 一名 | 陸海軍中將及ヒ同等ノ軍人軍屬    |
| 中將  | 一名 | 尉官 | 二  | 名 | 陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 中將  | 一名 | 陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬    |
| 大將  | 一名 | 尉官 | 三  | 名 | 陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬    | 大將  | 一名 | 陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬    |

大將 一名

大將  
中將  
少將  
二名  
一名

陸海軍大將及  
同等ノ軍屬

四

第十條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿之ヲ命ス尉官ヲ以テ判士ト爲ス時モ亦同シ

第十一條 軍團長及ヒ獨立師團長ハ部下ノ將校ニ其軍法會議ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得又理事審事缺員スル時ハ部下ノ將校ニ命シテ其職務ヲ行ハシメ錄事缺員スル時ハ下士ニ命シテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得

臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官部下ノ將校若クハ其地ニ在

ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ置キ被告人ノ官等ニ拘ハラス之ヲ審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第十二條 軍管軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツ可キ將校缺員スル時ハ軍管司令官ノ上申ニ依リ陸軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシム

### 第三章 軍法會議ノ權限

第十三條 軍法會議ハ其軍管若クハ師管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲ス

第十四條 軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第十五條 軍人數箇ノ軍法會議ノ管轄地内ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ被告人ヲ逮捕シタル地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十六條 軍團師團旅團軍法會議ハ其團所屬軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第十七條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十八條 軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發

覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

第十九條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人軍属ト共犯ニ係ル時モ亦同シ

第二十條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十一條 陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ發シタル者モ亦同シ

第二十二條 軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ發シタル違警罪モ亦之ヲ審判ス

第二十三條 軍中若クハ合團ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審

判ニ著手シタル者ハ陸軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

#### 第四章 陸軍檢察

第二十四條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ拾收ス

第二十五條 左ニ記列スル諸官ハ司令官ノ命令ヲ受ケテ陸軍檢察ノ職務ヲ行フ

要塞副官若クハ衛戍副官

憲兵ノ將校下士

衛兵司令

砲兵工兵ノ監護

第二十六條 要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長及ヒ各所管

ノ長官ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ委シテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得

審事其職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害セラレタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官被告人所屬ノ長官隊長若クハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ第二十七條ニ記載シタル官吏ニ告發スルコトヲ得

第二十九條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ重罪輕罪ヲ犯



ス者アルコトヲ知リタル時ハ其職務ヲ行フ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ告發ス可シ

第三十條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍檢察官司法警察官憲兵卒若クハ巡查ニ交付ス可シ

第三十一條 司法警察官憲兵卒及ヒ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ陸軍檢察官ニ引致ス可シ

第三十二條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ヲ受ケタル時ハ速ニ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ交付ス可シ

第三十三條 告訴人告發人ハ願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコ

トヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 陸軍檢察官軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ直ニ犯所ニ臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作ル可シ

其引致ヲ受ケタル時モ亦同シ

第三十五條 陸軍檢察官要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長各所管ノ長官檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ調書ヲ作り證憑文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

#### 第五章 審問

第三十六條 司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外事件ノ難易ニ從ヒ理事ニ下付シ審事ヲシテ其審問ヲ爲サシメ

若クハ直ニ其判決ニ付ス可シ

被告人上長官以上ナル時ハ軍管司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ具申ス可シ  
營所ニ於テ被告人士官以上ナル時ハ營所司令官之ヲ軍管司令官ニ  
具申ス可シ

第三十七條 陸軍卿審問ノ命令ヲ下ス時ハ其事件ヲ司令官ニ交付シ  
司令官ハ之ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十八條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官被告人ノ官  
等ニ拘ハラス直ニ其審問ノ命令ヲ下スコトヲ得

第三十九條 審事審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出廷シ  
タル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ

勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十一條 審事ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪證ヲ湮滅  
シ若クハ逃走ノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ  
遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十二條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地  
ニ在ル時ハ其地ノ陸軍檢察官若クハ審事若クハ司法警察官ニ其處  
分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十三條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他  
正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其  
所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ  
其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得



第四十四條 審事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

司令官ハ各軍管司令官營所司令官及ヒ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

第四十五條 審事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ

第四十六條 審事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其

處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十七條 審事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社

ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ第四十六條第二

項ノ例ニ依ル

第四十八條 審事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ審事其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

證人若シ遠隔ノ地ニ住スル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十九條 審事ハ被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ爲ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人若クハ證人ニ讀示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十條 審事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ

第五十一條 審事ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明セスシテ其呼

出ニ應セサル時ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但審事ハ其

證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

證人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百八十條ニ依リ又鑑定人鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

第五十二條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フル時亦審事之ヲ命ス

第五十三條 審事審問ニ於テ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ

共犯ヲ覺舉シタル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十四條 審事審問ヲ終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添ヘ訴訟文書ト共ニ之ヲ理事ニ交付シ理事ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ司令官

ニ上申スヘシ

# 第六章 判決

第五十五條 司令官ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ判士長ニ下シ其  
謄本ヲ訴訟文書ト共ニ理事ニ下付シ理事ハ之ヲ判士長ニ交付シ會  
議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ

第五十六條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士録事各其席ニ著キタル  
後判士長被告人ヲ出廷セシム

判士長ハ先ツ被告人ノ官位勲等隊號職名氏名族籍年齢ヲ問ヒ訊問  
ヲ爲スノ旨ヲ告示シ録事ヲシテ審事ノ報告書ヲ朗讀セシム  
其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シ  
テ其訊問ヲ爲サシム

第五十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令狀ヲ發スルコトヲ  
得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ  
命シテ其處分ヲ爲サシム可シ

法廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ例ニ依ル

第五十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ應セサル時  
ハ之ヲ引致ス可シ但疾病若クハ正當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサ  
ルコトヲ證明シタル時ハ判士長ハ其審判ヲ延期スルコトヲ得

第五十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ審判ノ日時ニ  
出廷セス若クハ逃走シテ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サル時ハ闕席

二十  
裁判ヲ爲スコシ

第六十條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ審判ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲スコシ

第六十一條 數人共犯ノ審判ヲ爲ス時ハ被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲スコシ

第六十二條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ訊問セシム可シ

證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ判士長ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ爲サシメ之ヲ司令官ニ具申スコシ

其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得

第六十三條 法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ判士

長ハ其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ

法廷ニ於テ共犯ヲ覺察シタル時ハ判士長ハ之ヲ司令官ニ具申スコシ

若シ餘罪ヲ覺察シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲スコシ但判士長ハ之ヲ司令官ニ具申スコシ

第六十四條 被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ判士長ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述スコキ事件ナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタルノ旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシム可シ

第六十五條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事共ニ署名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス理



事ハ訴訟文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

一有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス

二無罪ノ判決書ニハ被告事件罪ト成ラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス

三免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス

四被告人ノ官位勳等隊號職名氏名族籍年齡住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス

第六十六條 司令官ハ左ニ記列スルノ事件ハ陸軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス但營所司令官ハ士官以上ノ犯罪ハ軍管司令

官ニ上申ス可シ

死刑

上長官以上ノ重罪輕罪

士官ノ重罪

第六十七條 司令官其判決ヲ不適當ト思量スル時其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ陸軍卿ニ上申ス可シ

第六十八條 陸軍卿ハ司令官ヨリ具申スル所ノ判決ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ司令官ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得

陸軍卿ハ死刑並ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士官ノ重罪ニ係ル者ハ上奏シテ命ヲ請フ可シ



第六十九條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士録事法廷ニ臨  
ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

第七十條 闕席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會議ノ門前ニ揭示ス可  
シ

第七十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ第六十六  
條ノ權限ニ拘ハラス直ニ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得

第七十二條 軍團師團旅團ノ長若クハ合圍ノ地ノ司令官ハ輕罪ノ刑  
ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日  
數ハ刑期ニ算入セス

其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得  
第七十三條 行刑ニ關スル方法ハ陸軍卿別ニ之ヲ定ム

第七十四條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ時宜ニ依  
リ此治罪法ノ條目ヲ省畧執行セシムルコトヲ得

陸軍省稟請

案：陸軍刑法草案取調及上申置候處今又從來，慣例ト各國治罪法トヲ折衷斟酌之上別冊之通治罪法草案取調致進呈候條速ニ御裁定相成候様致度此段及上申候也 十四年十一月十五日

陸軍治罪法

陸軍治罪法目錄

第一章 總則

第二章 軍法會議ノ構成

第三章 軍法會議ノ權限

第四章 陸軍檢察

第五章 審問

第六章 判決

明治十六年

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 陸軍々人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其民事ハ受理セス但官物ヲ毀損シタルノ賠償ハ此限ニ在ラス

第二條 軍法會議ハ傍聴ヲ許サス但其宣告ヲ為ス時ハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條<sup>ニ掲</sup>クルモノヲ謂フ例ニ依ル

第四條 司令官ト稱スルハ軍團長師團長旅團長軍管司令官管所司令官及ヒ合團、地、司令官ヲ謂フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十八條、規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス

第六條 現行犯罪及ヒ准現行犯ノ場合ハ普通治罪法ノ例ニ依ル

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備、軍籍ニ在ル者ハ軍法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第八條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團旅團ニ軍法會議ヲ置キ合團、地ニモ亦軍法會議ヲ置ク

第九條 軍法會議ニハ判士長理事理事補審事審事補  
録事ヲ置ク

第十條 軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト為シ尉官  
三名理事理事補ノ内一名ヲ以テ判士トス但被告  
人少尉以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表  
ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

| 判士長   | 判士    | 被告人                   |
|-------|-------|-----------------------|
| 佐官 一名 | 尉官 三名 | 陸海軍少尉上等監護及<br>同等ノ軍人軍属 |
| 佐官 一名 | 尉官 三名 | 陸海軍中尉及ヒ同等<br>ノ軍人軍属    |
| 中佐 一名 | 尉官 三名 | 陸海軍大尉及ヒ同等<br>ノ軍人軍属    |
| 大佐 一名 | 尉官 三名 | 陸海軍少佐及ヒ同等<br>ノ軍人軍属    |
| 少将 一名 | 尉官 三名 | 陸海軍中佐及ヒ同等<br>ノ軍人軍属    |

|                    |                    |                    |                    |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 中將 一名              | 大佐 一名              | 中佐 一名              | 大將 一名              |
| 陸海軍大佐及ヒ同等<br>ノ軍人軍属 | 陸海軍少佐及ヒ同等<br>ノ軍人軍属 | 陸海軍中佐及ヒ同等<br>ノ軍人軍属 | 陸海軍大將及ヒ同等<br>ノ軍人軍属 |

第十一條 将官ヲ以テ判士ト為ス時ハ陸軍卿ノ奏  
請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス

佐尉官ヲ以テ判士ト為ス時ハ陸軍卿之ヲ命ス尉  
官ヲ以テ判士ト為ス時亦同シ

第十二條 軍團長及獨立師團長ハ部長ノ将校ニ其  
軍法會議ノ判士ヲ命スルヲ得若シ理事審事缺  
員スル時ハ部下ノ将校ニ命シテ其職務ヲ行ハシ  
ノ録事缺員スル時ハ下士ニ命シテ其職務ヲ行ハ



シムルヲ得

臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官部下、將校若クハ其地ニ在ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ置キ被告人、官等ニ拘ハラス之ヲ審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他、官吏ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得

第十三條

平時軍管內

ニ於テ

判士

ニ充ツ

ハキ

官缺員ナル時ハ軍管司令官、上申ニ依リ陸軍卿他、佐尉官ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他、軍法會議ニ移シテ其審判ヲ為サシム

### 第三章 軍法會議ノ権限

第十四條

軍法會議ハ其軍管若クハ師管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト為ス

第十五條

軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ其地、軍管軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルヲ得

第十六條

軍人數箇、軍法會議ノ管轄地内ニ於テ數次重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ被告人ヲ逮捕シタル地、軍管軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十七條

軍團師團旅團軍法會議ハ其團所屬軍人、犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第十八條

合圍ノ地、軍法會議ハ軍人ニ非スト雖未裁裁令第十一條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ審判ス

第十九條

臨戰若クハ合圍ノ地、軍法會議ヲ廢トスルニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者、陸軍卿指



定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理スル官司  
ト送致ス可シ

第十八條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會  
議ニ於テ之ヲ審判ス

第十九條 軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在  
官現役中發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判  
ス其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發  
覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ  
犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之  
ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發覺スル者ハ  
司法裁判ニ付ス

第二十條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各

其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ着手シタル  
軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍々人軍屬ト共犯  
ニ係ル時モ亦同シ

第二十一條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕  
罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十二條 陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ  
非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ  
發シタル者モ亦同シ

第二十三條 軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ發シタル  
違警罪モ亦之ヲ審判ス

第二十四條 臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢  
スルニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ陸軍卿ノ  
指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官

司：送致ス可シ

#### 第四章 陸軍檢察

第二十五條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ拾收ス

第二十六條 陸軍檢察ハ左ニ記列スル諸官司令官ノ命令ヲ受ケテ之ヲ行フ但合圍ノ地ニ於テハ某地司令官ノ命令ヲ受ケ

要塞副官若クハ衛戍副官

憲兵ノ將校下士

衛兵司令

職務ヲ行フニ當リ現行犯アルヲ知リタル審事

砲兵工兵ノ監護

第二十七條 要塞司令官衛戍司令官諸隊長分遣隊長及ヒ各所管ノ長官ハ各其管スル所ノ事ニ就キ

犯罪アルヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ為シ若クハ陸軍檢察官ニ委シテ其處分ヲ為サシムルヲ得

第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官被告人所属ノ長官隊長若クハ司法警察官ニ告訴ス可シルヲ得

第二十九條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルヲ知リタル時ハ第二十八條ニ記載シタル官吏ニ告發ス可シルヲ得

第三十條 陸軍所属ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人

、重罪輕罪ヲ犯<sup>ニシテ</sup>本首アルヲ知リタル時ハ其職  
務ヲ行フ地、陸軍検査官若クハ被告人、本<sup>母</sup>屬長  
官隊長ニ告發ス可シ

第三十一條 軍人、重罪輕罪現行犯アル時ハ何人  
ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルヲ得

其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍検査官司法  
警察官憲兵卒若クハ巡查ニ交付ス可シ

第三十二條 司法警察官憲兵卒及ヒ巡查現行犯、  
軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ  
之ヲ陸軍検査官ニ引致ス可シ

第三十三條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ヲ受  
ケタル時ハ速ニ陸軍検査官若クハ被告人所屬、  
長官隊長ニ交付スヘシ

第三十四條 告訴人告發人ハ願下ケテ為シ若クハ  
其述ル所ヲ變更スルヲ得

第三十<sup>四</sup>本條 陸軍検査官軍人、重罪輕罪ヲ現行犯  
アルヲ知リタル時ハ直ニ犯所ニ臨檢シ犯罪人  
ヲ逮捕シ訊問ヲ為シ其調書ヲ作ル可シ

其引致ヲ受ケタル時モ亦同シ

第三十<sup>五</sup>本條 陸軍検査官<sup>陸軍司令官次官補佐司令官諸隊長  
及ヒ被<sup>テ</sup>告<sup>ス</sup>人、本屬長官隊長</sup>  
長<sup>陸軍司令官次官補佐司令官諸隊長  
及ヒ被<sup>テ</sup>告<sup>ス</sup>人、本屬長官隊長</sup>検査官<sup>陸軍司令官次官補佐司令官諸隊長  
及ヒ被<sup>テ</sup>告<sup>ス</sup>人、本屬長官隊長</sup>處分ヲ為シ若クハ被告事件ヲ送致ス可シ

第五章 審問

第三十<sup>六</sup>本條 司令官被告事件、具申ヲ受ケタル時  
ハ其被告ハ官等ニ應<sup>テ</sup>左ノ諸項ヲ除ク、外<sup>事件</sup>直  
ニ之ヲ<sup>審問</sup>理事ニ下付シ審事ヲシテ其審問ヲ為サシ



メ若クハ直ニ其判決ニ付ス可シ

被告人上長官以上ナル時ハ軍管司令官ハ之ヲ陸

軍卿ニ具申ス可シ

管野ニ於テ被告人士官以上ナル時ハ營所司令官

ニ具申ス可シ

第三十<sup>七</sup>條 陸軍卿審問ノ命令ヲ下ス時ハ其事件

ヲ司令官ニ交付シ司令官ハ之ヲ理事ニ下付スヘ

第三十<sup>八</sup>條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ

司令官被告人ノ官等ニ係ラス直ニ其審問ノ命令

ヲ下スヲ得

第三十<sup>九</sup>條 審事審問ヲ為ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス

其被告人出廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十<sup>十</sup>條 審事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其軍

法會議ノ管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ審事

若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルヲ得

第四十<sup>一</sup>條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日

時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルヲ得

第四十<sup>二</sup>條 審事ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ

被告人罪証ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アル時若ク

ハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍未其目的ヲ遂クルノ恐

アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十<sup>三</sup>條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタ

ル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應ス

ル能ハサルヲ証明シタル時ハ其所在ニ就テ之

ヲ訊問スルヲ得若シ被告人其軍法會議ノ管轄



地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルヲ得

第四十<sup>四</sup>條 審事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルヲ能ハサル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ司令官ハ各軍管司令官營所司令官及ヒ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ請求ス可シ

第四十<sup>五</sup>條 勾引狀ヲ受ケ可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ陸軍檢察官若クハ司法警察官ニ委シテ之ヲ執行スルヲ得

第四十<sup>六</sup>條 審事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ諛ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルヲ得收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑

ニ諛ル可キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ

第四十<sup>七</sup>條 審事ハ事實審明ノ為メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ為スヲ得其處分ヲ為ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルヲ得

第四十<sup>八</sup>條 審事ハ事實審明ノ為メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係シル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルヲ得

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルヲ得

第四十九條 審事ハ證人ヲ呼出スヲ得

証人其軍法會議ノ管轄地外ニ住スルカ又ハ遠隔ノ地ニ住スル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ト其處分ヲ囑託スルヲ得

第五十條

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ証明シタル時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ訊問スル又ハ訊問セシムルヲ得

第五十一條 證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ審事録事ト共ニ其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ

証人遠隔ノ地ニ住スル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルヲ得

第五十二條 審事被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ為ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ録

取シ被告人若クハ證人ニ讀示セシメ其陳述レタル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減セシムヲ請求スルヲ得

第五十三條 審事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル為メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ為サシム可シ

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定又為シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ

第五十四條 審事ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ

明セシテ其呼出ニ應セサル時ハ貳圓以上拾圓以下  
罰金ヲ科ス可シ

證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル  
時ハ普通刑法第百八十條ニ依リ又鑑定人宣誓ヲ  
肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑  
法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

通事宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ譯述ヲ肯セサル  
時ハ四圓以上四拾圓以下、罰金ヲ科ス可シ

第五十五條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ  
普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フ  
ル時亦審事之ヲ命ス

第五十六條 証人鑑定人通事ハ旅費日當ヲ要ムル  
ヲ得但鑑定人ハ旅費日當ノ外鑑定ニ要シタル

費用アリハ之ヲ要ムルヲ得

第五十七條 審事審問ニ於テ餘罪ヲ覺舉シタル時  
ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ

共犯ヲ覺舉シタル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ  
具申スヘシ

第五十八條 審事審問ヲ終リタル時ハ其報告書ヲ  
作り意見書ヲ添ヘ訴訟文書ト共ニ之ヲ理事ニ交  
付シ理事ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可  
シ

第六章 判決

第五十九條 司令官ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書  
ヲ判士長ニ下シ其謄本ヲ訴訟文書ト共ニ理事ニ  
下付シ理事ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ



判士ニ通報ス可シ

第<sup>五十八</sup>十條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士録事各

其席ニ就キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム

判士長ハ先ツ被告人、官位勲等階級職名族籍氏

名年齢ヲ問ヒ訊問ヲ為ス、旨ヲ告示シ録事ヲシ

テ審事、報告書ヲ朗讀セシム

其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ

若クハ判士ニ命シテ其訊問ヲ為サシム

第<sup>五十九</sup>十條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令

狀ヲ發スルヲ得

判士長ハ<sup>法</sup>審廷ニ於テ警戒、為メ其處置ヲ為スヲ

ヲ得

<sup>法</sup>審廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ

為シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ為サシム可シ

<sup>法</sup>審廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第

五章ノ例ニ依ル

第<sup>六十</sup>六條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷

ノ命ニ應セサル時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病若ク

ハ正當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサルヲ證明

シタル時ハ判士長ハ其審判ヲ延期スルヲ得

第<sup>六十</sup>七條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人若

狀ヲ受テタル後逃走シテ審判ノ日時ニ出廷セ<sup>ス</sup>若

ル時ハ欠席裁判ヲ為ス可シ

第<sup>六十</sup>八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走

シテ召喚狀ヲ送達スルヲ得サル時ハ<sup>欠</sup>席裁判

ヲ為ス可シ



第六十<sup>五</sup>條 罰金ノ刑ニ談ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ審判ノ日時ニ出廷セサル時ハ<sup>煖</sup>席裁判ヲ為ス可シ

第六十<sup>六</sup>條 數人共犯ノ審判ヲ為ス時ハ被告人中<sup>煖</sup>席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ<sup>審判</sup>味ヲ為ス可シ

第六十<sup>七</sup>條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後証人ヲ訊問シ若クハ<sup>判士命令シテ</sup>訊問セシム可シ

証人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ談ル可キ者ト認メタル時ハ判士長ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ為シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ為サシメ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

其處分ヲ為シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延

期スルコトヲ得

第六十<sup>八</sup>條 <sup>法</sup>審廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スル

コアル時ハ判士長ハ其處分ヲ為シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ為サシム可シ

<sup>法</sup>審廷ニ於テ共犯ヲ覺舉シタル時ハ判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

若シ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ為ス可シ但判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第六十<sup>九</sup>條 被告人及ヒ証人ノ訊問終リタル時ハ判士長ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシム可シ

第六十<sup>七</sup>條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ

條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事共ニ署名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス理事ハ訟文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

一 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正条ヲ記ス

二 無罪ノ判決書ニハ被告事件罪ト成ラサルヲ及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス

三 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト為リタルヲ大赦アリタルヲ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルヲ及ヒ其理由ヲ記ス

四 被告人ノ官位勲等隊號職名氏名族籍年齡住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス

第六十八條

司令官ハ左ニ記列スルノ事件ハ陸軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス但營所司令官ハ士官以上ノ犯罪ハ軍管司令官ニ上申ス可シ

死刑

上長官以上ノ重罪輕罪

士官ノ重罪

第七十九條 司令官其判決案ヲ不適當ト思量スル時其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ陸軍卿ニ上申ス可シ

第七十條

陸軍卿ハ司令官ヨリ具申スル所ノ判

決案ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ司令官ニ下シ  
テ之ヲ再議セシムルヲ得

陸軍卿ハ死刑关ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士  
官ノ重罪ニ係ルモノハ上奏シテ命ヲ請フ可シ

第七十中條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長  
判士録事法廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士  
長其宣告ヲ為ス可シ

其重罪ノ刑ハ兵隊整列ノ前ニ於テ其宣告ヲ為ス  
可シ但隊外ノ者ニ係ル時ハ死刑ヲ除クノ外法廷  
ニ於テ宣告ス可シ

第七十本條 大席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會  
議ノ門前ニ揭示ス可シ

第七十六條 押收ノ物件及ヒ犯人ノ手ニ在ル器物

決案ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ司令官ニ下シ  
テ之ヲ再議セシムルヲ得

陸軍卿ハ死刑关ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士

官ノ重罪ニ係ルモノハ上奏シテ命ヲ請フ可シ

第七十中條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長  
判士録事法廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士  
長其宣告ヲ為ス可シ

其重罪ノ刑ハ兵隊整列ノ前ニ於テ其宣告ヲ為ス  
可シ但隊外ノ者ニ係ル時ハ死刑ヲ除クノ外法廷  
ニ於テ宣告ス可シ

第七十本條 次席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會  
議ノ門前ニ掲示ス可シ

第七十六條 押收ノ物件及ヒ犯人ノ手ニ在ル器物



小理事之ヲ所有主ニ還付シ其毀棄ス可キ汲收品  
小其處分ヲ為ス可キ

第七十七條<sup>三</sup> 臨戦若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ  
司令官ハ第七十八條ノ權限ニ拘ハラズ直ニ其宣  
告執行ノ命令ヲ下スヲ得

第七十八條<sup>四</sup> 軍團師團旅團ノ長若クハ合圍ノ地ノ  
司令官ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服  
務ヲ命スルヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算  
入セス

其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免ス  
ルヲ得

第七十九條<sup>五</sup> 行刑ニ関スル方法ハ陸軍卿別ニ之ヲ  
定ム

明治十六年

第八十六條

臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司

令官ハ時宜ニ依リ此治罪法ノ條目ヲ省畧執行セ

シムルヲ得

参事院議案第二局査査

別紙陸軍省上申陸軍治罪法制定ノ件審査スル處左  
ノ如シ

右審按スルニ同省上奏ノ旨趣不都合ノ虞無之文  
章聊カ穩當ナラサル外ハ朱書ヲ以テ之ヲ修正ス  
右ニ由リ布告按別冊ノ通ニテ可然哉上申候也  
一月廿一日

陸軍治罪法

陸軍治罪法目錄

第一編 總則

第二編 陸軍裁判所ノ構成

第一章 軍法會議ノ構成

第二章 再檢會議ノ構成

第三編 陸軍裁判所ノ權限

第一章 軍法會議ノ權限

第二章 再檢會議ノ權限

第四編 陸軍司法警察及豫審

第一章 陸軍司法警察

第一節 告誡及ヒ告發

第二節 現行犯罪

第二章 豫審

第一節 令狀

第二節 證據

第三節 被告人訊問及ヒ對質

第四節 檢証<sup>証</sup>及ヒ物件押收

第五節 證人訊問

第六節 鑑定

第五編 公判

第一章 對審裁判

第二章 關席裁判

第六編 再檢會議、裁判

第一章 上告

第二章 再審、訴

第七編 裁判執行復權特赦

第一章 裁判執行

第二章 復權

第三章 特赦

第八編 司憲裁判

第一章 司憲裁判所、構成及ヒ權限

第二章 司憲裁判所、公判

陸軍治罪法

第一編

第一條 公訴ハ理事之ヲ行ヒ私訴ハ被害者ニ屬ス

損害陸軍官署若クハ軍人ニ係ル時ハ公訴ニ附帶

シテ陸軍裁判所ニ私訴ヲ為スヲ得

第二條 公訴私訴并起ル時ハ公訴、裁判ニ先テ私

訴、裁判ヲ為ス可カラス此規則ニ背キタル時ハ

其裁判共ニ效ナシトス

第三條 被告人免訴若クハ無罪ノ宣告ヲ受ケタリ

ト雖モ被害者ニ對シ賠償返還ノ責ヲ免ルコト得

ス

第四條 公訴ヲ為スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一 被告人ノ死去

二 告訴ヲ待テ受理ス可キ者ハ其被害者ノ棄權

若クハ私和

三 確定裁判

四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢

止

五 大赦

六 期滿免除

第五條 私訴ヲ為スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅

ス

一 被害者ノ棄權若クハ私和

二 確定裁判

三 期滿免除

第六條 公訴期滿免除ノ期限左ノ如シ

一 重罪ハ十年

二 輕罪ハ三年

三 違警罪ハ六月

第七條 私訴期滿免除ノ期限ハ被害者無能力ナル

時若クハ民事裁判所ニ其訴ヲ為シタル時ト雖モ

公訴期滿免除ノ期限ニ同シ

公訴ノ裁判ニ因リ既ニ刑ノ宣告アリタル時ハ民

法ニ定ムル所ノ期滿免除ノ例ニ從フ



第八條 公訴私訴期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス

但繼續犯罪ニ於テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

第九條 期滿免除ハ豫審若クハ公判ニ着手シタル時ハ其期限ノ經過ヲ中断ス其未タ發覺セサル正犯疑犯ニ於テモ亦同シ

期滿免除期限ノ經過ヲ中断シタル時ハ豫審若クハ公判ヲ停止シタル日ヨリ更ニ其期限ヲ起算ス但前後ノ日數ヲ通算シテ第六條ニ定ムル所ノ期限ノ二倍ヲ超過ス可カラス

第十條 豫審若クハ公判ノ方法其規則ニ背キ無効ニ屬シタル時ハ期滿免除期限ノ經過ヲ中断スルノ効ナシトス

第十一條 免訴若クハ無罪ノ宣告ヲ受ケタル被告人ハ其訴訟ノ原由告訴人告發人若クハ民事原告人ノ重キ過失ニ出テタル時ハ其者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルヲ得

被告人刑ノ宣告ヲ受ケタルト雖モ告訴告發人若クハ民事原告人ノ重キ過失ニ因リ過實ノ申告ヲ為シタル時亦同シ

第十二條 被告人免訴無罪ノ宣告ヲ受ケタリト雖モ裁判官理事審事録事司法警察官及ヒ職務ヲ以テ告發ス可キ官吏ニ對シ要償ノ訴ヲ為スヲ得

但其官吏等被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加  
ヘタル時ハ此限ニ在ラス

第十三條 期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスル者ハ即  
時ヨリ起算シ日ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セス  
若シ最終ノ日休<sup>假</sup>ニ當ル時ハ期限ニ算入ス可カ  
ラス

但期滿免除ノ期限ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スル  
ハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第十四條 期限ニハ陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與  
フ八里ニ滿タスト雖<sup>モ</sup>三里以上ナル時亦同シ  
海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ  
加フ

第十五條 訴訟期限ヲ經過シタル時ハ訴訟ヲ為ス  
ノ權ヲ失フ

但変災厄難ニ因リ期限ヲ經過シタル者其変災  
厄難ヲ免カレタルヨリ通常ノ期限内ニ公正  
ノ證書ヲ以テ之ヲ證明シタル時ハ其權ヲ回  
復スルヲ得

第十六條 訴訟ニ關スル文書ニハ年月日ヲ記シ署  
名捺印及ヒ每葉契印スルヲ能ハサル時ハ會同者  
代書シテ其事由ヲ記ス可シ若シ官吏ノ面前ニ於  
テ作ル時ハ官吏其事由ヲ記シテ署名捺印ス可シ  
但官吏ノ作ル可キ文書ニハ場所ヲ記スヘシ

第十七條 訴訟ニ關スル文書ハ文字ヲ改竄ス可カ  
ラス若シ削除填注及ヒ欄外ノ記入ヲ要スル時ハ

之ニ認印シ文字ヲ削除スル時ハ止タ其文字ニ線ヲ畫シ原字体ヲ存シ其削除ニ係ル字數ヲ記ス可シ此規則ニ背キタル時ハ其変更増減ノ效ナシトス

第十八條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第十九條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ陸軍裁判所ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルヲ得ス

第二十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第二十一條 此治罪法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

但頒布以前ニ着手シタル治罪ノ方法當時ノ法律ニ背カサル者ハ其效アリトス

第二編 陸軍裁判所ノ構成

第一章 軍法會議ノ構成

第二十二條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數箇ヲ設ク

第二十三條 軍中ニ於テハ其軍團師團旅團ニ軍法會議一箇若クハ數箇ヲ設ク

合團ノ地ニモ亦一箇若クハ數箇ヲ設ク

第二十四條 軍法會議ニハ裁判官理事理事補審事審事補錄事ヲ置ク

第二十五條 裁判官ハ公訴私訴ノ裁判ヲ為ス事ヲ掌ル



理事ハ公廷ニ會同シ公益ヲ保護シ及ヒ命令ヲ執行スル等、事ヲ掌ル

審事ハ令狀ヲ發シ証憑ヲ集取シ檢査物件押收鑑定、處分及ヒ被告人証人ノ訊問ヲ為ス等、事ヲ掌ル

録事ハ豫審公判ニ陪シ公判始末書其他訴訟ニ關スル文書ヲ作り及ヒ一切ノ文書ヲ保存スル等、事ヲ掌ル

第二十六條 軍法會議ハ左ノ五名ヲ以テ裁判官ト為ス

裁判長 中佐若クハ少佐一名  
判士 大尉一名 中尉一名  
曹長一名

第二十七條 裁判官ハ被告人ノ等級ニ從ヒ左ノ表

ニ照シテ之ヲ更フ

| 裁判長    | 判士                       | 被告人                |
|--------|--------------------------|--------------------|
| 大中佐 一名 | 大中佐 一名<br>中佐 一名<br>少佐 一名 | 陸海軍少尉上等並護及ヒ同等、軍人軍屬 |
| 大中佐 一名 | 大中佐 一名<br>中佐 一名<br>少佐 一名 | 陸海軍中尉及ヒ同等、軍人軍屬     |
| 大佐 一名  | 大佐 一名<br>中佐 一名<br>少佐 一名  | 陸海軍大尉及ヒ同等、軍人軍屬     |
| 少將 一名  | 少將 一名<br>中佐 一名<br>大佐 一名  | 陸海軍少佐及ヒ同等、軍人軍屬     |
| 少將 一名  | 少將 一名<br>中佐 一名<br>大佐 一名  | 陸海軍中佐及ヒ同等、軍人軍屬     |
| 中將 一名  | 中將 一名<br>少將 一名<br>大佐 一名  | 陸海軍大佐及ヒ同等、軍人軍屬     |
| 中將 一名  | 中將 一名<br>少將 一名<br>大佐 一名  | 陸海軍少將及ヒ同等、軍人軍屬     |
| 大將 一名  | 大將 一名<br>中將 一名<br>少將 一名  | 陸海軍中將及ヒ同等、軍人軍屬     |
| 大將 一名  | 大將 一名<br>中將 一名<br>少將 一名  | 陸海軍大將及ヒ同等、軍人軍屬     |

第二十八條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ左



ノ表ニ照シテ三名ヲ以テ裁判ヲ為スヲ得

| 裁判長     | 判士      | 被告                  |
|---------|---------|---------------------|
| 中少佐 一名  | 大中少尉 二名 | 陸海軍下士以下ノ軍人及ヒ同等ノ軍屬   |
| 大中少佐 一名 | 大中尉 一名  | 陸海軍少尉上ノ軍監護及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 大中少佐 一名 | 大中尉 一名  | 陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬      |
| 大中佐 一名  | 大中尉 一名  | 陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬      |
| 大佐 一名   | 大中尉 一名  | 陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬      |
| 少將 一名   | 大中尉 一名  | 陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬      |
| 中將 一名   | 大中尉 一名  | 陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬      |
| 中將 一名   | 大中尉 一名  | 陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬      |
| 大將 一名   | 大中尉 一名  | 陸海軍中將及ヒ同等ノ軍人軍屬      |
| 大將 一名   | 大中尉 一名  | 陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬      |

第二十九條 將官ヲ以テ裁判官ト為ス時ハ陸軍卿

ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス

佐尉官ヲ以テ裁判官ト為ス時ハ軍管司令官ノ上

申ニ依リ陸軍卿之ヲ命ス

下士ヲ以テ裁判官ト為ス時ハ軍管司令官之ヲ命ス

裁判官ノ任期ハ滿六月トス但他ノ軍管ニ轉職

スル時ハ期限内ト雖モ其任ヲ解ク

第三十條 軍團師團旅團軍法會議ノ裁判官ハ軍團

長部下ノ將校下士ヨリ之ヲ命ス若シ師團獨立シ

タル時ハ其團長之ヲ命スルヲ得

合團ノ地ニ於テハ其司令官部下ノ將校下士及ヒ

其地方豫備後備ノ將校下士ヨリ之ヲ命スルヲ

得

第三十一條 判士ニ充ツ可キ相當ノ將校足ラサル

時ハ一名若クハ二名ハ次級ノ將校ヲ以テ之ニ  
充ツルヲ得

第三十二條 陸海軍將校及ヒ同等ノ軍人軍屬ノ審  
判ヲ為ス時ハ初任ノ理事審事之ニ從事ス

上長官士官及ヒ同等ノ軍人軍屬ノ審判ヲ為ス時  
ハ兼任ノ理事審事之ニ從事ス

第三十三條 皇族勅任官ノ審判ヲ為ス時ハ將官ノ  
審判ヲ為ス時ノ例ニ從ヒ裁判官理事及ヒ審事  
ヲ定ム

第三十四條 俘虜降人ノ裁判ヲ為ス時ハ第二十六  
條第二十七條第二十八條ニ照シテ裁判官ヲ定ム

第三十五條 數人共犯ノ裁判ヲ為ス時ハ被告人中  
等級ノ上ナル者ニ從ヒ第二十七條第二十八條ニ

照シテ裁判官ヲ定ム

第三十六條 軍法會議ニ於テ裁判官事故アリテ裁  
判ヲ為スヲ得サル時ハ軍管司令官ノ上申ニ因  
リ陸軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ  
他ノ軍法會議ニ移シテ其裁判ヲ為サシム

第三十七條 軍法會議ニ於テ理事審事事故アリテ  
審判ニ從事スルヲ得サル時ハ軍管司令官ノ上  
申ニ因リ陸軍卿他ノ理事審事ニ命シ若クハ被告  
人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ為サシム  
録事事故アル時ハ軍管司令官一時其代員ヲ命ス  
ルヲ得

第三十八條 軍團師團旅團軍法會議ニ於テ理事審  
事事故アリテ審判ニ從事スルヲ得サル時ハ軍

團長部下、將校若クハ其地、判事檢事ヨリ之ヲ命スルヲ得若シ師團獨立シタル時ハ其團長之ヲ命スルヲ得

合團、地ニ於テハ其司令官之ヲ命スルヲ得

第三十九條 裁判官理事審事録事左ニ記載シタル

者ニ係ル時ハ其審判ニ從事スルヲ得ス

一 被告人被害者及ヒ其配遇者、親屬

二 被告人被害者、後見人

三 告發人被害者及ヒ証據ヲ陳述シタル者

第二章 再檢會議ノ構成

第四十條 再檢會議ハ東京ニ一箇ヲ設ク

第四十一條 再檢會議ニハ裁判官理事録事ヲ置ク

第四十二條 裁判官ハ上告及ヒ再審、訴ヲ判決ス

ル等ノ事ヲ掌ル

理事ハ公延ニ會同シ公益ヲ保護シ及ヒ命令ヲ執行スル等ノ事ヲ掌ル

録事ハ公延ニ陪シ訴訟ニ関スル文書ヲ作り及ヒ一切ノ文書ヲ保存スル等ノ事ヲ掌ル

第四十三條 再檢會議ハ左ノ五名ヲ以テ裁判官ト為ス

裁判長 少將一名

判士 大佐若クハ中佐二名少佐二名

第四十四條 將官ヲ以テ裁判官ト為ス時ハ陸軍卿、奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス

佐官ヲ以テ裁判官ト為ス時ハ陸軍卿之ヲ命ス

裁判官ノ任期ハ滿六月トス



第四十五條 再檢會議、裁判官ハ原軍法會議、裁判官ト同級以上、者ニ非サレハ之ニ任スルヲ得ス

再檢會議、裁判官ハ原軍法會議、裁判官ヲ以テ之ニ任スルヲ得ス

第四十六條 原軍法會議、理事勅任官ナル時ハ再檢會議、理事モ亦勅任理事トス

第四十七條 第三十九條、規則ハ本章ニ於テ亦之ヲ適用ス

第三編 陸軍裁判所ノ權限  
第一章 軍法會議ノ權限

第四十八條 軍管軍法會議ハ其管轄地内ニ在ル軍人、犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第四十九條 軍法會議ハ其軍管若クハ師管、所管地方ヲ以テ其管轄トス

第五十條 軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ其地、軍管軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルヲ得

第五十一條 軍人數箇、軍法會議、管轄地内ニ於テ數次重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ其中ニテ被告人ヲ逮捕シタル地、軍管軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第五十二條 軍團軍法會議ハ其團所屬軍人、犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス  
師團軍法會議ハ其團所屬士官以下、軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス



但獨立師團ナル時ハ上長官ノ犯シタル重罪輕

罪モ亦之ヲ審判ス

旅團軍法會議ハ其團所屬下士以下ノ軍人ノ犯シタル輕罪ヲ審判ス

第五十三條 合團ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地ニ在ル軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

軍人ニ非スト雖モ戒嚴令第十一條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者亦之ヲ審判ス

第五十四條 軍中若クハ合團ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ陸軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官ニ送致ス可シ

第五十五條 從軍諸員ノ犯シタル重罪輕罪從軍中

發覺マル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス停廢降人ノ犯シタル重罪輕罪モ亦軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第五十六條 軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺スル者ハ司法<sup>法</sup>司ニ付ス

第五十七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ司法<sup>法</sup>司ニ付ス

第五十八條 軍人共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ豫審若クハ公判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第五十九條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕

罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

但海軍ノ軍人軍屬ト共犯ニ係ル時ハ前條ノ例

ニ從フ

第六十條 陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非

スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ發

シタル時亦同シ

但海軍ノ軍人軍屬ハ海軍裁判所ニ付ス

第六十一條 軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ發シタル

違警罪モ亦之ヲ審判ス

但違警罪ノ裁判宣告ニ對シテハ上告ヲ許サス

第二章 再檢會議ノ權限

第六十二條 再檢會議ハ軍法會議ノ裁判宣告ニ對

スル上告及ヒ再審ノ訴ヲ裁判ス

第四編 陸軍司法警察及ヒ豫審

第一章 陸軍司法警察

第六十三條 陸軍司法警察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ

搜查シ証憑ヲ拾收ス

第六十四條 陸軍司法警察ハ左ノ諸官軍管司令官

ノ命令ヲ受ケテ之ヲ行フ但官所ニ於テハ其司令

官ノ命令ヲ受ケ可シ

軍中ニ於テハ其所管ノ軍團師團旅團ノ長ノ命令

ヲ受ケ合團ノ地ニ於テハ其司令官ノ命令ヲ受ケ可シ

要塞副官若シハ衛戍副官

憲兵ノ將校下士

衛兵司令

明治十六年

砲兵工兵ノ監護

第六十五條 陸軍司法警察官ハ重罪輕罪ノ証憑書類ヲ軍管司令官ニ送致ス可シ但當所ニ於テハ之ヲ其司令官ニ送致ス若シ當所ニ軍法會議ノ設ケナキ時ハ當所司令官其書類ヲ軍管司令官ニ送致スハシ

軍中ニ於テハ重罪輕罪ノ証憑書類ヲ其所管ノ軍團師團旅團ノ長ニ送致シ合團ノ地ニ於テハ其司令官ニ送致ス可シ

違警罪ノ証憑書類ハ之ヲ司憲裁判所ニ送致シ軍人ニ非サル時ハ之ヲ違警罪裁判所ニ送致ス可シ

第六十六條 要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長及ヒ各所管ノ長官砲兵工廠工兵方面支署

ノ長ハ各其關スル所ノ事ニ就キ犯罪ヲ證明スル調書ヲ作り重罪輕罪ノ調書ハ之ヲ軍管司令官若クハ營所司令官ニ送致ス可シ

但各所管ノ長官ハ陸軍司法警察官ニ委シテ其處分ヲ為サシムルヲ得

軍管司令官ノ所管ニ非サル諸隊長ハ重罪輕罪ノ調書ヲ其所管ノ長官ニ交付シ長官ハ之ヲ軍管司令官ニ送致ス可シ

分遣隊長及ヒ砲兵工廠工兵方面支署ノ長軍管司令官營所司令官所在ノ地ニ遠隔スル時ハ軍人ニ非サル者ニ係ル調書ハ直ニ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致スルヲ得

軍中ニ於テハ重罪輕重ノ調書ヲ其所管ノ軍團師



團旅團ノ長ニ送致シ合團ノ地ニ於テハ之ヲ其司令官ニ送致ス可シ

違警罪ノ調書ハ之ヲ司憲裁判所ニ送致シ軍人ニ非サル時ハ之ヲ違警罪裁判所ニ送致ス可シ

第一節 告訴及ヒ告發

第六十七條 何人ヲ論セズ軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地<sup>若クハ</sup>被告人所在ノ地ノ陸軍司法警察官被告人所屬ノ長官隊長若クハ地方司法警察官吏ニ告訴スルヲ得

第六十八條 何人ヲ論セズ軍人ノ犯罪アルヲ知リタル時ハ前條ニ記載シタル官吏ニ告發スルヲ得

第六十九條 地方司法警察官吏軍人ニ係ル告訴告

發ヲ受ケタル時ハ速ニ陸軍司法警察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ交付ス可シ

第七十條 告訴人告發人ハ願下ヲ為シ若クハ其述フル所ヲ變更スルヲ得

但第十一條ニ記載シタル要償ノ訴ヲ免ルヲ得

第七十一條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ重罪輕罪ヲ犯ス者アルヲ知リタル時ハ其職務ヲ行フ地ノ陸軍司法警察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ告發ス可シ

軍人ノ違警罪ヲ犯ス者アルヲ知リタル時ハ司憲裁判所ニ告發ス可シ

告發ハ文書ヲ以テ之ヲ為シ<sup>証</sup>憑アル時ハ之ヲ添



ヲ可シ

但文書ニハ官吏署名捺印ス可シ

## 第二節 現行犯罪

第七十二條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ若クハ現ニ行ヒ終ル、際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

第七十三條 重罪輕罪ニ係ル時ハ左ニ記載シタル者亦現行犯ニ准ス

一犯人トシテ追呼セラル、時

二兇器、贓物其他犯人ト認ム可キ物件ヲ携帶シタル時

三家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證シ若クハ其他人ト認ム可キ者ヲ逮捕スル為メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタル時

第七十四條 陸軍司法警察官重罪輕罪、現行犯アルヲ知リタル時ハ直ニ犯所ニ臨檢シ被告人ヲ逮捕シ訊問ヲ為シ檢証調書ヲ作り重罪輕罪、現行犯ナルヲ記シ其證憑書類ハ第六十五條、規則ニ從テ之ヲ送致ス可シ

違警罪、現行犯アルヲ知リタル時ハ被告人、官名隊号氏名往所ヲ問ヒ之ヲ司憲裁判所ニ告發シ軍人ニ非サル時ハ違警罪裁判所ニ告發ス可シ若シ被告人、答辭分明ナラス若クハ逃走、恐アル時ハ其裁判所ニ引致ス可シ

第七十五條 審事職務ヲ行フニ當リ現行犯アルヲ知リタル時ハ前條、規則ニ從テ處分ス可シ

第七十六條 憲兵奉職務ヲ行フニ當リ軍人、重罪

輕罪、現行犯アルヲ知リタル時ハ命令ヲ待タスレテ之ヲ逮捕ス可シ

違警罪、現行犯アルヲ知リタル時ハ第七十四條第二項、規則ニ從テ處分ス可シ

第七十七條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪、現行犯アル時ハ直ニ之ヲ逮捕スルヲ得

其被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍司法警察官若クハ地方司法警察官吏ニ引致ス可シ若シ引致スルヲ能ハサル時ハ自己ノ氏名職業住所及ヒ逮捕ノ事由ヲ述ヘ假ニ憲兵卒若クハ巡查ニ交付スルヲ得

憲兵卒及ヒ巡查ニ交付シタル時ハ速ニ告訴若クハ告發ヲ為ス可シ

憲兵卒巡查及ヒ被告人ハ逮捕シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルヲ求ムルヲ得其逮捕シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求メヲ拒ムヲ得

第七十八條 憲兵卒及ヒ巡查現行犯、軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ陸軍司法警察官ニ引致ス可シ

第七十九條 陸軍司法警察官現行犯ニ係ル軍人、引致ヲ受ケタル時ハ調書ヲ作り逮捕及ヒ告訴告發ノ事由ヲ記シ且第七十四條、規則ニ從テ處分ス可シ

地方司法警察官吏現行犯、軍人ヲ逮捕シ若クハ引致ヲ受ケタル時ハ速ニ陸軍司法警察官ニ交付

ス可シ

第二章 豫審

第八十條 軍管司令官營所司令官被告事件、送致  
ヲ受ケタル時ハ其事件、難易ニ從ヒ豫審ヲ命シ  
若クハ直ニ公判ニ付ス可シ

被告人上長官以上、軍人ナル時ハ軍管司令官訴  
訟書類ヲ陸軍卿ニ送致ス可シ

營所ニ於テ被告人士官以上、軍人ナル時ハ營所  
司令官訴訟書類ヲ軍管司令官ニ送致ス可シ

被告事件其管轄ニ非サル時ハ訴訟書類ヲ添ヘ其  
事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

第八十一條 軍團師團旅團、長被告事件、送致ヲ  
受ケタル時ハ前條第一項第四項、處分ヲ為ス可

シ

軍團ニ於テ被告人將官及同等、軍人ナル時ハ軍  
團長訴訟書類ヲ添ヘ之ヲ陸軍卿ニ送致スルヲ  
得

師團ニ於テ被告人上長官以上、軍人ナル時ハ師  
團長訴訟書類ヲ添ヘ之ヲ軍團長ニ送致ス可シ若  
シ師團獨立シタル時ハ上長官、犯罪モ亦之ヲ處  
分スルヲ得

但將官及同等、軍人ナル時ハ之ヲ陸軍卿ニ送  
致ス可シ

旅團ニ於テ被告人士官以上、軍人ナル時及ヒ下  
士以下、軍人、重罪ニ係ル時ハ旅團長訴訟書類  
ヲ添ヘ之ヲ師團長ニ送致ス可シ



第八十二條 陸軍卿被告事件ノ送致ヲ受ケタル時

ハ第八十條第一項第四項ノ處分ヲ為ス可シ

第八十三條 合圍ノ地ニ於テ其司令官被告事件ノ

送致ヲ受ケタル時ハ被告人ノ官等如何ヲ論セス

第八十條第一項第四項ノ處分ヲ為ス可シ

第八十四條 陸軍卿軍團師團旅團ノ長及ヒ司令官

第八十條第一項第四項ノ處分ヲ為シ若クハ被告

事件ヲ受理セサル時其告訴ニ係ル者ハ理事ヲシテ

之ヲ被害者ニ通知セシム可シ

第八十五條 豫審ノ命令書ハ訴訟書類ト共ニ理事

ニ下付シ理事ハ直ニ之ヲ審事ニ交付ス可シ

陸軍卿命令ヲ下ス時ハ其書類ヲ軍管司令官ニ交

付シ司令官之ヲ理事ニ下付ス可シ

第八十六條 審事ハ命令アルニ非サレハ豫審ヲ為

ス可カラズ若シ命令ヲ待タズシテ之ヲ為シタル

時ハ其效ナシトス

豫審ヲ為スニ因リ餘罪ヲ覺察シタル時ハ更ニ命

令ヲ待タズシテ本案ノ事件ト共ニ豫審ヲ為ス可シ

第八十七條 豫審ヲ為スニ因リ共犯ヲ覺察シタル

時ハ審事理事ヲ經由シテ陸軍卿司令官若クハ軍

團師團旅團ノ長ニ具申ス可シ

但陸軍卿ニ具申スル時ハ理事其具申書ヲ司令官

ニ出ス可シ

第八十八條 審事豫審ノ處分ヲ終リタル時ハ一切

書類ニ報告書及ヒ意見書ヲ添ヘ之ヲ理事ニ交

付シ理事ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍卿司令官若クハ



第一節 令狀

第八十九條 審事豫審ヲ為ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ

被告人出廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第九十條 審事ノ召喚狀ヲ受ケ可キ被告人其軍法會議ノ管轄地外ニナル時ハ其所在ノ地ノ審事若クハ豫審判事ニ訊問ス可キ條件ヲ示シテ其處分ヲ囑託スルヲ得

第九十一條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルヲ得

第九十二條 審事ハ被告人罪証ヲ湮滅シ若クハ逃

走ノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第九十三條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ五日以内ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其期限ヲ經過セタル時ハ收禁狀ヲ發スルニ非サレハ之ヲ釋放ス可シ

第九十四條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應ムル能ハサルヲ証明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルヲ得若シ被告人其軍法會議ノ管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ審事若クハ豫審判事ニ訊問ス可キ條件ヲ示シテ其處分ヲ囑託ス可シ

第九十五條 收禁狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮  
以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認ムルニ非サレハ之ヲ發  
スルコトヲ得ス

第九十六條 令狀ニハ被告事件被告人ノ官名隊番  
氏名住所及ヒ之ヲ發スルノ年月日時ヲ記シ審事  
及ヒ録事署名捺印ス可シ

第九十七條 令狀ハ<sup>審事</sup>理事之ヲ<sup>審事</sup>審事ニ交付シ理事ハ  
其執行ヲ指揮スヘシ

第九十八條 勾引狀收禁狀ハ憲兵率ヲ<sup>シテ</sup>之ヲ執行  
セシム憲兵率ハ正本ヲ被告人ニ示シ謄本ヲ下付  
シ其二本ニ日時場所ヲ記シ署名捺印セシム若シ  
署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

第九十九條 勾引狀ヲ受ク可キ被告人營内ニ在ル

時ハ該隊長ニ示シテ前條ノ處分ヲ為ス隊長連ニ  
令狀ニ應セシム可シ其隊伍ニ在ル時亦同シ

被告人海軍艦船營内ニ在ル時ハ艦船營長若クハ  
士官ニ令狀ヲ示シテ前條ノ處分ヲ為ス艦船營長  
士官ハ連ニ令狀ニ應セシム可シ其隊伍ニ在ル時  
亦同シ

第一百條 勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル  
時ハ其地ノ陸軍司法警察官若クハ地方司法警察  
官吏ニ委シテ之ヲ執行スルコトヲ得

第一百一條 憲兵率勾引狀ヲ執行スルニ當リ被告人  
其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト認メタ  
ル時ハ其地ノ戸長若クハ<sup>隣</sup>祐ノ會同ヲ求メ之ヲ  
搜索ス可シ

憲兵卒ハ被告人ヲ緝捕シタルト否トニ拘ラス搜  
索調書ヲ作り會同人ト共ニ署名捺印ス可シ  
其搜索ハ日出前日没後ハ之ヲ為スヲ得ス

但軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ此限ニ在  
ラス

第二百二條 審事被告人ノ所在ヲ覺知スルヲ能ハサ  
ル時ハ理事ヲ經由シテ之ヲ司令官若クハ軍團師  
團旅團ノ長ニ申報ス可シ  
司令官團長ハ各軍管司令官營所司令官及ヒ各控  
訴裁判所檢事長ニ人相書ヲ送り逮捕ヲ求ム可シ  
各司令官及ヒ檢事長ハ其求メニ應ジ逮捕ノ處分  
ヲ為ス可シ

第二百三條 憲兵卒收禁狀ヲ執行スル時ハ速ニ其被

告人ヲ令狀ニ記スル所ノ監倉ニ引致ス若シ其監  
倉ニ引致スルヲ能サル時ハ假ニ最近ノ監倉ニ引  
致ス可シ

監倉ノ官吏ハ令狀ヲ檢シテ被告人ヲ接受シ其計  
書ヲ付與スヘシ

第二百四條 憲兵卒令狀ヲ執行シタル時ハ其旨ヲ令  
狀ノ正本ニ記ス若シ執行スルヲ能ハサル時ハ其  
事由ヲ記ス可シ

憲兵卒ハ令狀執行ニ関スル書類ヲ録事ニ出シ録  
事ハ其受領證書ヲ付與ス可シ

第二百五條 審事ハ豫審中被告事件禁錮以上ノ刑ニ  
該ル可キ者ニ非ス若クハ收禁ヲ要セサル者ト認  
メタル時ハ收禁狀ヲ解キ其旨ヲ理事ニ通知ス可



第二節 證據

第百六條 審事ハ事實審明ノ為メ證據徵憑ヲ集取  
マ可シ

第百七條 審事臨檢家宅搜索物件押收若クハ被告  
人証人ノ訊問ヲ為ス時ハ録事之ニ會同シ調書作  
リ審事ト共ニ署名捺印ス可シ  
急遽ノ際録事ノ會同ヲ待ツコト能ハサル時ハ會同  
人ヲ用フ可シ

但監倉ニ就テ被告人ヲ訊問スル時ハ其監倉ノ  
官吏ヲシテ會同ヤシム可シ

録事會同ヤサル時ハ審事自ラ調書ヲ作り之ヲ讀  
示シ會同人ト共ニ署名捺印ス可シ

會同ヲ待タスシテ本條ノ處分ヲ為シタル時ハ其  
效ナシトス

第三節 被告人訊問及ヒ對質

第百八條 審事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ

但檢証處分証人訊問等急速ヲ要スル時ハ此限  
ニ在ラス

第百九條 審事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ供述ヤシム  
ル為メ恐嚇若クハ詐言ヲ用フ可カラス

第百十條 録事ハ訊問及ヒ供述ヲ録シ之ヲ被告人  
ニ讀示ス可シ

審事ハ被告人ニ供述シタル所ニ違ハサルヤ否ヲ  
問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサ  
ル時ハ其旨ヲ記ス可シ



録事ハ本條ノ式ヲ行ヒタルヲ記シ審事ト共ニ署名捺印ス可シ

第百十一條 被告人供狀ノ増減変更ヲ請求シタル時ハ更ニ訊問ヲ為シ前條ノ規則ニ從フ可シ

第百十二條 審事ハ事實審明ノ為メ被告人ト他ノ被告人証人若クハ其他ノ者ト對質セシムルヲ得

第百十三條 録事ハ對質人ノ供述及ヒ對質ニ因リ生シタル一切ノ事件ヲ録シ其對質ニ係ル部ヲ對質人ニ讀示ス可シ

第百十條第百十一條ノ規則ハ對質ニ於テ亦之ヲ適用ス

第百十四條 訊問及ヒ對質ノ為メ通事ヲ要スル時

ハ第百三十條第一項第三項ノ規則ニ從ヒ之ヲ呼出ス可シ

呼出狀ニハ通事ノ氏名住所出頭ノ日時及ヒ犯罪事件ノ為メ通事ヲ命スルヲ其呼出ニ應ヤサル時ハ罰金ヲ科ス可キヲ記ス可シ

若シ故ナク呼出ニ應ヤサル時ハ第百三十四條ノ規則ニ從テ處分ス可シ

但勾引狀ヲ發スルヲ得ス

第百三十五條ノ規則ハ本條ニ於テ亦之ヲ適用ス

第百十五條 審事ハ通事ヲシテ正實ニ通譯ス可キノ宣誓ヲ為サシム可シ

通事宣誓ヲ肯ヤス若クハ宣誓シテ譯述ヲ肯ヤサル時ハ審事理事ノ意見ヲ諮ヒ何人ヲ論ヤス四圓

明治十六年

以上四十圓以下ノ罰金ヲ科スルノ宣告ヲ為ス可シ

宣誓書及ヒ調書ハ録事之ヲ通事ニ讀示シ署名捺印セシム可シ

第百三十七條 第百四十六條ノ規則ハ前條及ヒ本條ニ於テモ亦之ヲ適用ス

第四節 檢査及ヒ物件押收

第百十六條 審事ハ事實審明ノ為メ臨檢ヲ要スル時ハ重罪輕罪ノ犯所ニ臨ミ檢査ヲ為ス可シ

其檢査調書ニハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告ノ人違ナキヲ證明ス可キ形狀ヲ記ス可シ

第百十七條 審事檢所ニ於テ發見シタル物件ニ因リ犯罪ノ形狀及ヒ被告人ノ人違ナキヲ知ルニ

足ル可シト認メタル時ハ其物件ヲ押收シテ認印ヲ為シ目錄ヲ作ル可シ

但物件ヲ監護シ若クハ遞送スルハ録事之ヲ擔任ス可シ

第百十八條 審事ハ被告人ノ住所若クハ事實ヲ明ス可キ物件ヲ隱匿スルノ疑アル場所ニ臨檢スルヲ得

被告人若クハ物件ヲ隱匿スル者其住所ニ在ラサル時ハ同居ノ親屬ヲシテ會同セシム若シ其親屬在ニサル時ハ戸長若クハ隣佑ヲシテ會同セシム可シ

第百一條第三項ノ規則ハ本條ニ於テ亦之ヲ適用ス

第一百十九條 審事營内若クハ海軍艦船營内ニ臨ミ  
檢査<sup>テ</sup>為ス時ハ士官ノ會同ヲ求ム可シ

第一百二十條 臨檢家宅搜索ノ處分ヲ為ス時ハ被告  
人被害者若クハ其代人之ニ會同スルヲ得

但審事ハ其會同ヲ為メ豫審ヲ遲延ス可カラズ  
被告人收禁ニ係ル時ハ自ラ會同スルヲ得ス

第一百二十一條 審事家宅搜索ヲ為ス時ハ第一百十七  
條ノ規則ニ從テ物件ヲ押收ス可シ

第一百二十二條 物件ヲ押收シタル時ハ其目錄ノ謄  
本ヲ會同人ニ付與ス可シ

第一百二十三條 審事ハ押收ノ物件ヲ被告人ニ示シ  
テ訊問ヲ為シ<sup>辯</sup>解<sup>辯</sup>ヲ為サシム可シ

其訊問及ヒ<sup>辯</sup>解ハ之ヲ調書ニ記ス可シ

第一百二十四條 審事檢所ニ於テ證人ヲ要スル時ハ

第一百二十九條以下ノ規則ニ從フ可シ

第一百二十五條 審事此節ニ記載シタル處分ヲ為ス

時ハ何人ヲ論セム允許ヲ得スシテ其檢所ニ出入  
スルヲ禁スルヲ得

若シ其禁ヲ犯ス者アル時ハ之ヲ逐ルシ若クハ其  
處分ヲ終ルマテ留置マルヲ得

第一百二十六條 臨檢家宅搜索物件押收ノ處分其日

ニ終ラサル時ハ檢所ノ周圍ヲ鎖シ若クハ看守者  
ヲ置クヲ得

第一百二十七條 審事ハ其軍法會議ノ管轄地内ト雖

モ時宜ニ因リ臨檢家宅搜索ノ處分ヲ其地ノ豫審  
判事若クハ治安判事ニ囑託スルヲ得



第二百二十八條 審事ハ事實審明、為メ驛遞電信鐵道、官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人若クハ豫審ニ關係アル者ノ往復書類電報及ヒ物件ヲ收受開披スルヲ得  
其書類物件不用ニ屬シタル時ハ其官署及ヒ會社ニ還付ス可シ

第五節 証人訊問

第二百二十九條 審事ハ理事民事原告人及ヒ被告人ヨリ証人トシテ指名シタル者ヲ呼出ス可シ  
原被ノ証人夥多ナル時ハ最モ事實ヲ知ル可シト認メタル者重罪事件ニ於テ各三名輕罪事件ニ於テ各二名ヲ限り之ヲ呼出ス可シ  
但事實審明ノ為メ要スル時ハ此限ニ在ラス

又原被ノ指名ヤサル者ト雖モ証人トシテ之ヲ呼出ス丁ヲ得

第二百三十條 証人ハ審事ノ名ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

呼出狀ニハ証人ノ官名職稱氏名住所出頭ノ日時及ヒ呼出ニ應ヤサル時ハ罰金ヲ科シ且勾引スルヲアル可キ旨ヲ記ス可シ

其証人軍人ニ非サル時ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間二十四時以上ノ猶豫ヲ為ス可シ  
但軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ此限ニ在ラス

第二百三十一條 審事ハ証人其軍法會議ノ管轄地内ニ住ヤサル時ハ其住地ノ審事若クハ豫審判事若



ハ治安判事ニ訊問ス可キ條件ヲ示シテ其處分ヲ囑託スルヲ得

其管轄地内ト雖モ遠隔ノ地ニ住スル時ハ其地ノ豫審判事若クハ治安判事ニ前項ノ處分ヲ囑託スルヲ得

第三百十二條 証人 疾其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルヲ証明シタル時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ訊問スルヲ得

第三百十三條 証人 出廷シタル時ハ審事其官名隊番氏名年齢住所及ヒ第三百三十九條ニ記載シタル者ナルヤ否ヲ訊問ス可シ

第三百十四條 証人 故ナク呼出ニ應セサル時ハ審事理事ノ意見ヲ諮ヒ何人ヲ論セス二圓以上十圓

以下ノ罰金ヲ科スルノ宣告ヲ為ス可シ

又其証人ニ罰金ノ宣告書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ發シ若クハ直ニ勾引狀ヲ發スルヲ得

若シ証人再度ノ呼出ニ應セサル時ハ二倍ノ罰金ヲ科スルノ宣告ヲ為シ且勾引狀ヲ發スルヲ得

宣告書ハ審事之ヲ理事ニ交付シ理事ハ録事ヲシテ即時ニ本人ニ送達セシム可シ

第三百十五條 証人 初度若クハ再度ノ呼出狀ヲ受ケサルヲ其呼出狀第三百三十條ノ規則ニ背キタルヲ若クハ正當ノ事故アリテ出廷スル能ハサリシヲ証明シタル時ハ審事理事ノ意見ヲ諮ヒ罰金ノ宣告ヲ解ク可シ

第三百十六條 審事 第三百十三條ノ訊問終リタル

時ハ証人ヲシテ正實ニ陳述ス可キヲ宣誓セシム可シ

審事ハ証人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

若シ証人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル片ハ審事理事ノ意見ヲ諮ヒ何人ヲ論セス普通刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ科スル、宣告ヲ為ス可シ

普通刑法第三百六十條ニ記載シタル者ハ本條ノ例ニ在ラス

第百三十七條 証人ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ノ規則ニ從フ

但罰金ヲ禁錮ニ換フル時ハ理事ノ決ニ因リ審事之ヲ命ス

第百三十八條 審事ハ証人ノ陳述ヲ確實ナラシムル為メ必要ナリトスル時ハ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行ス可シ

第百三十九條 左ニ記載シタル者ハ証人ト為スヲ得ス

但事實參考ノ為メ其陳述ヲ聴クヲ得

一 民事原告人

二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬及ヒ雇人

三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人

四 民事原告人及ヒ被告人ノ後見ヲ受クル者

第百四十條 左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ

- 一 十六歳未満、幼者
  - 二 知覺精神、完全ナラサル者
  - 三 瘡腫者
  - 四 公権ヲ剥奪セラレ若クハ停止セラレタル者
  - 五 重禁錮以上、刑ニ諛ル可キ罪ニ因リ公判ニ付セラレタル者
  - 六 重罪裁判所ニ移ス、宣告ヲ受ケタル者
  - 七 現ニ陳述ス可キ事件ニ因リ掌テ諛ヲ受ケ其証憑完全ナラサルヲ以テ免訴、宣告ヲ受ケタル者
  - 第四百十一條 審事ハ証人ト他ノ詐人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ訊問ス可シ
- 但事實審明、為ノ對質ヲ要スル時ハ此限ニ非

ラス

- 第四百十二條 第四百十四條第四百十五條ノ規則ハ証人訊問ニ於テ亦之ヲ適用ス
- 第四百十三條 證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ審事録事ト共ニ其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ
- 第四百十四條 録事ハ証人毎ニ調書ヲ作り其陳述ヲ記ス可シ
- 又其調書ニハ証人、宣誓ヲ為シタルヲ記ス若シ宣誓ヲ為サル時ハ其事由ヲ記ス可シ
- 第四百十五條 審事ハ録事ヲシテ調書ヲ証人ニ讀示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ



証人ハ其陳述ヲ變更増減セシムルヲ請求スルヲ得  
其請求アリタルヲ及ヒ變更増減ノ條件ハ之ヲ調  
書ニ記シ前項ノ規則ニ從フ可シ

録事ハ本條ノ式ヲ行ヒタルヲ記シ審事ト共ニ  
署名捺印スヘシ

第四百十六條 証人ハ出廷ノ旅費日當ヲ要ムルヲ  
得

第六節 鑑定

第四百十七條 審事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分  
明ナラシムル為メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術職業  
ニ因リ鑑定スルヲ得可キ者ニ命シテ鑑定ヲ  
為サシム可シ

第四百十八條 鑑定人ハ第四百三十條第一項第三項

ノ規則ニ從ヒ之ヲ呼出ス可シ

呼出狀ニハ鑑定人ノ氏名住所職業出頭ノ日時及  
ヒ犯罪事件ヲ為メ鑑定ヲ命スルヲ其呼出ニ應セ  
サル時ハ罰金ヲ料ス可キヲ記ス可シ

若シ故ナク呼出ニ應セサル時ハ第四百三十四條ノ  
規則ニ從テ處分ス可シ但勾引狀ヲ發スルヲ得  
ス

第四百三十五條 規則ハ本條ニ於テ亦之ヲ適用ス  
第四百十九條 審事ハ鑑定人ヲシテ正實ニ鑑定ス  
可キノ宣誓ヲ為サシメ其宣誓書ヲ讀示シ署名捺  
印セシム可シ

録事ハ鑑定人ノ宣誓シタルヲ鑑定命令書ノ紙  
尾ニ記ス可シ



若シ鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサル時ハ審事理事ノ意見ヲ諮ヒ何人ヲ論セス普通刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金ヲ科スルノ宣告ヲ為ス可シ

第百五十條 鑑定人ニ罰金ヲ科スル時ハ第百三十七條ノ規則ニ從フ可シ

第百五十一條 第百三十九條第百四十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト為ストヲ得ス但急遽ノ際正當ノ鑑定人ト為ス可キ者ナキ時ハ事實參考ノ為メ鑑定ヲ命スルヲ得

第百五十二條 審事ハ或ル可ク鑑定ニ蒞ム可シ

第百五十三條 審事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ鑑定人ヲ増加シ若クハ別人ヲシテ鑑

定ヲ為サシムルヲ得

第百五十四條 鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ為シタル時間ヲ詳記ス若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記ス可シ

第百五十五條 鑑定人ハ鑑定書ニ年月日ヲ記シ署名捺印及ヒ契印シ之ヲ審事ニ出ス可シ

第百五十六條 鑑定人ニハ旅費給<sup>相當</sup>其他相當ノ費用ヲ給ス可シ

第五編 公判

第一章 對審裁判

第百五十七條 陸軍卿司令官若クハ軍團師團旅團ノ長ハ公判ヲ為ス可キノ命令書ヲ裁判官ニ下付シ其謄本ヲ訴訟書類ト共ニ理事ニ下付シ理事ハ

訴訟書類及ヒ証憑ヲ裁判長ニ交付ス可シ

被告事件公判ニ付ヤサル時其告訴ニ係ル者ハ理  
事ヲシテ之ヲ被害者ニ通知セシム若シ其被害者  
私訴ヲ為シタル時ハ其訴狀ヲ却下ス可シ

第百五十八條 裁判長ハ開庭ヨリ裁判執行ニ至ル  
マテ令狀ヲ發スルヲ得若シ被告人逃走シテ所  
在ヲ覺知スルヲ能ハサル時ハ第百二條ノ規則ニ  
從テ處分ス可シ

第百五十九條 訊問<sup>辯論</sup>及ヒ裁判宣告ハ之ヲ公行  
ス否ラサレハ其效ナシトス

被告事件軍事ノ機密ニ関スル時及ヒ公安ヲ害シ  
若クハ猥褻ニ涉リ風俗ヲ害スルノ恐アル時ハ裁  
判長理事ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ訊問及

ヒ<sup>辯論</sup>辯論ノ傍聴ヲ禁スルヲ得

第百六十條 裁判長ハ公庭ニ於テ警戒ノ為メ相當  
ノ處置ヲ為ス可シ稱讚誹謗其他公判ノ妨礙ヲ為  
ス者アル時ハ之ヲ制止シ若クハ退廷セシム可シ

第百六十一條 被告人公庭ニ於テ喧噪シテ公判ノ  
妨礙ヲ為ス時ハ裁判長理事ノ請求ニ因リ若クハ  
職權ヲ以テ退廷セシメ對審トシテ<sup>辯論</sup>辯論ヲ繼續シ  
及ヒ裁判宣告ヲ為スヲ得

若シ<sup>辯論</sup>辯論ニ日ニ涉ル時ハ更ニ被告人ヲ出廷セシ  
ム可シ

第百六十二條 何人ヲ論セス公庭ニ於テ罪ヲ犯ス  
者アル時ハ裁判長直ニ第七十四條ノ處分ヲ為シ  
若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ為サシム可シ

第百六十三條 公廷ニ於テハ被告人ノ身体ヲ拘束  
ス可カラス

第百六十四條 被告人ハ辯護人ヲ用フルヲ得

辯護人ハ訴訟書類ヲ閱シ且之ヲ抄寫スルヲ得

第百六十五條 被告人民事原告人及ヒ民事擔當人

ハ軍法會議ヨリ呼出狀ヲ發シテ之ヲ呼出ス可シ

呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ官名隊號氏名住

所出廷ノ日時及ヒ被告事件ヲ記ス可シ但民事原

告人民事擔當人及ヒ罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人

ニ送達スル呼出狀ニハ代人ヲシテ出廷セシムル

ヲ得可キ旨ヲ記ス可シ

第百六十六條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人疾

病アルニ非スシテ出廷ノ命ニ應セサル時ハ之ヲ

引致ス可シ

第百六十七條 被告人疾病ニ因リ出廷スルヲ能ハ

サル時ハ所管ノ長官若クハ該隊長之ヲ理事ニ通

報ス可シ但被告人收禁ニ係ル時ハ監倉ノ官吏之

ヲ通報ス可シ

收禁ニ係ラサル被告人軍人ニ非サル時ハ親屬故

舊其被告人ノ疾病事故ヲ申報スルヲ得

理事ハ其事由ヲ裁判長ニ申報シ裁判長ハ裁判ヲ

延期ス可シ

第百六十八條 數人共犯ノ裁判ヲ為ス時ハ被告人

中關席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ

對審裁判ヲ為ス可シ

第百六十九條 被告人ハ豫審ニ於テ訊問シタルト否



トヲ問ハス裁判長理事及ヒ訴訟關係人ノ請求ニ  
因リ若クハ職權ヲ以テ之ヲ呼出スヲ得

第百七十條 証人ハ軍法會議ヨリ呼出狀ヲ發シテ  
之ヲ呼出ス可シ

第百七十一條 裁判官理事及ヒ録事各其席ニ就キ  
タル後訊問及ヒ辯論ヲ為ス可シ

裁判長ハ先ツ被告人ノ官位勲等隊番職名族籍氏  
名年齢住所出生ノ地ヲ訊問ス可シ

又録事ヲシテ公判ノ命令書及ヒ審事ノ報告書ヲ  
朗讀セシム可シ

第百七十二條 裁判長ハ前條ノ朗讀終リタル後被  
告事件ヲ訊問ス可シ

訊問ヲ為スニハ恐嚇若クハ詐言ヲ用フ可カラス

被告人豫審中供述シタル事件ヲ変更センコトヲ求  
メ若クハ其事件ヲ確認セサルコトヲ供述シタル時  
ハ其事由ヲ辨明セシム可シ

第百七十三條 裁判長ハ被告人ヲ訊問シタル後原  
被ノ証人ヲ訊問ス可シ

又証憑物件ヲ被告人ニ示シテ辨解ヲ為サシメ且  
反証ヲ出スヲ得可キコトヲ告知ス可シ

第百七十四條 訴訟關係人及ヒ証人ハ裁判長ニ非  
サレハ之ヲ訊問スルコトヲ得ス但判士理事ハ裁判  
長ニ請ヒ訊問スルコトヲ得

訴訟關係人ハ辯論ニ必要ナリトスル事件ヲ分明  
ナラシムル為メ証人ヲ訊問ス可キコトヲ裁判長ニ  
請求スルヲ得



第百七十五條 證人ハ互ニ言語ヲ接ス可カラズ又陳述前辯論ノ席ニ出ルコトヲ許サズ

第百七十六條 裁判長ハ証人陳述ヲ為シタル後更ニ其証人ヲ訊問シ若クハ他ノ證人ト對質セシムルコトヲ得

判士理事及ヒ訴訟關係人ハ前項ノ處分ヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第百七十七條 裁判長ハ原被證人ノ陳述終ル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フ可シ

第百七十八條 被告人ノ面前ニ於テ證人陳述ヲ盡スコトヲ得サルノ恐アル時ハ裁判官<sup>長</sup>理事及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ其陳述中被告人ヲ退廷セシム可シ

其陳述終リタル時ハ再ヒ被告人ヲ出廷セシメ其陳述シタル條件ヲ告知シ且被告人意見アル時ハ之ヲ陳述セシム可シ

第百七十九條 証人ヲ呼出サズ若クハ証人呼出ヲ受ケテ出廷セズ若クハ豫審公判ノ陳述ヲ比較ス可キ時ハ裁判長理事及ヒ訴訟關係人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ豫審ニ於テ錄取シタル陳述書ヲ朗讀セシムルコトヲ得

第百八十條 裁判長ハ理事及ヒ訴訟關係人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ調書及ヒ檢証書類ヲ朗讀セシムルコトヲ得其書類ハ原被証人ノ陳述ト其效同シ

第百八十一條 裁判長ハ理事及ヒ訴訟關係人ノ請

求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ調書ヲ作りタル官吏  
ヲ呼出シ及ヒ調書説明ノ為メ審事ヲ出延セシム  
ルコトヲ得

第百八十二條 証人ハ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁  
錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ裁判長  
理事及ヒ訴訟關係人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ  
以テ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ為シ調書ヲ作り若  
クハ判士ニ命シテ其處分ヲ為サシメ之ヲ司令官  
若クハ軍團師團旅團ノ長ニ送致ス可シ  
本條ノ處分ヲ為シタル時ハ裁判長理事及ヒ訴訟  
關係人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ本案ノ裁  
判ヲ延期スルコトヲ得

第百八十三條 第百三十條及ヒ第百三十三條以下

ニ記載シタル証人訊問ノ規則ハ本章ニ於テ亦之  
ヲ適用ス

第百八十四條 証人呼出ニ應セサル時ハ裁判長理  
事及ヒ訴訟關係人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以  
テ公判ヲ延期スルノ宣告ヲ為スコトヲ得但再度ノ  
呼出ニ應セサルニ因リ公判ヲ延期シタル時ハ其  
証人ニ對シ勾引狀ヲ發ス可シ

第百八十五條 公判ニ於テ鑑定人ヲ要スル時ハ第  
百四十七條以下ノ規則ニ從テ處分ス但其呼出狀  
ハ軍法會議ヨリ之ヲ發ス可シ  
豫審ニ於テ鑑定シタル事件説明ヲ要スル時ハ更  
ニ其鑑定人ヲ呼出シ前數條ニ記載シタル證人ニ  
關スル規則ニ從テ處分ス可シ

公判

第百八十六條 公判ニ於テ通事ヲ要スル時ハ第百十四條第百十五條ノ規則ニ從テ處分ス但其呼出狀ハ軍法會議ヨリ之ヲ發ス可シ

第百八十七條 被告人ハ辯護人ノ支障アル時若クハ之ヲ改選ス可キ正當ノ事故アル時ハ其因由ヲ述ヘ之ヲ改選スルヲ得

第百八十八條 辯論中被告人精神錯亂シタル時ハ痊癒ノ後更ニ辯論ヲ為ス可シ其他ノ疾病ニ罹ル時ハ痊癒ヲ待テ停止以後ノ辯論ヲ為ス可シ但五日以上辯論ヲ停止シ若クハ理事及ヒ訴訟關係人ノ請求アリタル時ハ更ニ辯論ヲ為ス可シ

若シ第百九十五條ノ辯論終リタル時ハ痊癒ノ後更ニ辯論ヲ為サスシテ裁判宣告ヲ為ス可シ

第百八十九條 被告人出廷スト雖モ辯論スルヲ肯セサル時ハ對審トシテ裁判宣告ヲ為ス可シ

第百九十條 公判ニ於テ檢証ノ處分ヲ要スル時ハ裁判長理事及ヒ訴訟關係人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ其處分ヲ為シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ為サシム

第百九十一條 辯論ニ因リ共犯ヲ覺舉シタル時ハ裁判長理事ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ陸軍卿司令官若クハ軍團師團旅團ノ長ニ具申ス可シ

第百九十二條 辯論ニ因リ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ更ニ命令ヲ待タスシテ本案ノ事件ト共ニ裁判ヲ為ス可シ但裁判長ハ之ヲ陸軍卿司令官若クハ軍團師團旅團ノ長ニ具申ス可シ



第百九十三條 理事被告人及ヒ民事擔當人ハ辯論

中公訴受理ス可カラサル旨ヲ申訴スルコトヲ得

其申訴アリタル時ハ裁判長直ニ裁判會議ニ付ス

可シ

又裁判長ハ職權ヲ以テ裁判會議ニ付スルコトヲ得

第百九十四條 証憑調査後理事民事原告人被告人

其辯護人及ヒ民事擔當人順次發言ス可シ

理事及ヒ訴訟關係人ハ迭ヒ辯論ヲ為スコトヲ得

第百九十五條 理事ハ法律適用ノ為メ意見ヲ陳述

シ民事原告人ハ要償ノ為メ意見ヲ陳述ス可シ

被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辯ヲ為ス

コトヲ得

第百九十六條 辯論ノ最終ニハ被告人若クハ辯護

人ヲシテ發言セシム可シ

第百九十七條 辯論終リタル時ハ裁判長判士ト共

ニ會議室ニ入り會議ヲ為ス可シ

第百九十八條 被告事件ノ有罪無罪ヲ定ムルハ被

告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述

鑑定人ノ鑑定其他諸般ノ徵憑ニ因リ裁判官ノ心

証ニ任ス

第百九十九條 裁判宣告ハ左ノ區別ニ從テ之ヲ為

ス可シ

一 犯罪ノ証憑完全ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ宣

告ヲ為ス可シ

二 犯罪ノ証憑完全ナラス若クハ被告事件罪ト

ナラサル時ハ無罪ノ宣告ヲ為ス可シ

三 公訴期満免除トナリ若クハ確定裁判ヲ經若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免シ若クハ大赦アリタル時ハ免訴ノ宣告ヲ為ス可シ

第二百條 裁判宣告書ハ事實ト法律ニ依リ左ノ條件ニ照シテ作ル可シ

一 刑ノ宣告書ニハ犯罪ノ<sup>證</sup>証憑及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ詳記ス可シ

二 無罪ノ宣告書ニハ被告事件罪ト為ラサル<sup>證</sup>及ヒ其理由ヲ詳記シ犯罪ノ<sup>證</sup>証憑完全ナラサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

三 免訴ノ宣告書ニハ公訴ノ期満免除ト為リタルヲ確定裁判ヲ經タルヲ大赦アリタルヲ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルヲ及ヒ其理由ヲ詳

記ス可シ

第二百一條 裁判官ハ宣告ノ前宣告前書ヲ作り録事ト<sup>證</sup>署名捺印ス可シ

又宣告書ニハ被告人ノ官位勲等隊番職名氏名族<sup>證</sup>籍年齡住所及ヒ宣告ヲ為シタル軍法會議年月日其事件ニ干預シタル理事ノ氏名ヲ記ス可シ

第二百二條 裁判宣告ハ會議終リタル後公庭ニ於テ即日之ヲ為シ若クハ次日ニ之ヲ為ス可シ

其宣告ハ裁判長之ヲ為シ且其宣告ニ對シ上告スルヲ得可キヲ及ヒ其期限ヲ被告人ニ告知ス可シ  
第二百三條 私訴ノ裁判宣告ハ公訴ノ裁判ト共ニ之ヲ為ス可シ

又私訴ノ裁判ハ公訴ノ裁判アリタル後其宣告ヲ

為スヲ得

第二百四條 收禁ヲ受ケタル被告人罰金以下、刑  
ノ宣告ヲ受ケタル時ハ其宣告ト共ニ釋放ノ宣告  
ヲ為ス可シ

收禁ヲ受ケタル被告人無罪免訴ノ宣告ヲ受ケタ  
ル時ハ其宣告ト共ニ放免ノ宣告ヲ為ス可シ

第二百五條 被告人刑ノ宣告ヲ受ケタル時ハ裁判  
長ノ職權ヲ以テ公訴裁判費用ノ全部若クハ幾分  
ヲ擔當ス可キノ宣告ヲ為ス可シ

免訴若クハ無罪ノ宣告アリタル時ハ官其公訴裁  
判費用ヲ擔當ス可シ

私訴裁判費用ハ民事ノ規則ニ從ヒ敗訴シタル者  
之ヲ擔當ス可シ

第二百六條 沒收ニ係ラサル押收ノ物件ハ所有主  
ノ請求ナシト雖モ不用ニ屬シタル時ハ之ヲ還付  
ス可シ贓物犯人ノ手ニ在ル時亦同シ

第二百七條 訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ裁判宣告  
書ノ謄本若クハ其枚書ヲ求ムルコヲ得但上告ノ  
為メ其求メヲ為シタル時ハ録事二十四時内ニ之  
ヲ下付ス可シ

第二百八條 録事ハ各事件毎ニ公判始末書ヲ作り  
左ノ條件其他公判ニ關スル一切ノ事件ヲ記ス可  
シ

一 被告人ノ官位勲等隊號職名氏名族籍年齢住  
所

二 裁判ヲ公行シタルコ若クハ傍聽ヲ禁スルコ



宣告ヲ為シタルヲ及ヒ其事由

三 被告人ノ訊問及ヒ其陳述

四 証人鑑定人ノ陳述及ヒ宣誓ヲ為シタルヲ若

シ宣誓ヲ為サ、ル時ハ其事由

五 原被ノ證據物件

六 辯論中公訴受理ス可カラサルノ申訴アリタ

ルヲ及ヒ其申訴ヲ許可セサルヲ

七 辯論數日ニ涉リ及ヒ裁判官理事録事ヲ換ヘ

タル時ハ其理由

八 辯論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ發言セ

シメタルヲ

九 裁判宣告ヲ為シタル軍法會議年月日及ヒ理

事ノ氏名

第二百九條 公判始末書ハ裁判宣告ヨリ三日内ニ

之ヲ整頓シ裁判官録事署名捺印ス可シ裁判長ハ

署名捺印スルノ前公判始末書ヲ閱シ意見アル時

ハ其紙尾ニ記ス可シ

第二百十條 裁判宣告書公判始末書ノ正本ハ録事

之ヲ保存ス可シ

上告アリタル時ハ裁判長録事裁判宣告書公判始

末書ノ謄本ニ認印シ之ヲ上告書類ニ添フヘシ

第二百十一條 理事ハ三月毎ニ公判ノ既決表ヲ作

リ軍管司令官若クハ管所司令官ニ出シ司令官ハ

之ヲ陸軍卿ニ出ス可シ

第二章 開席裁判

第二百十二條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人呼

出狀ヲ受ケタル後逃走シテ公判、日時ニ出廷セ  
サル時ハ理事及ヒ民事原告人、請求ニ因リ闕席  
裁判ヲ為ス可シ

第二百十三條 禁錮以上、刑ニ該ル可キ被告人逃  
走シテ呼出狀ヲ送達スルコトヲ得サル時ハ裁判長  
理事、請求ニ因リ猶豫ノ期限ヲ定メ其期限内ニ  
出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ為ス可キ、告知書ヲ  
軍法會議ノ門前ニ掲示ス可シ  
軍人ニ非サル被告人ニ呼出狀ヲ送達スルコトヲ得  
サル時ハ告知書ヲ被告人、住所若クハ戸長ニ送  
達ス可シ若シ被告人猶豫ノ期限内ニ出廷スルコ  
ト能ハサル時ハ親屬故舊其事由ヲ証明スルコトヲ得  
其事由正當ナル時ハ理事、請求ニ因リ裁判ヲ延

期ス可シ

第二百十四條 罰金、刑ニ該ル可キ被告人呼出狀  
ニ受ケ公判、日時ニ出廷セサル時ハ理事及ヒ民  
事原告人、請求ニ因リ闕席裁判ヲ為ス可シ

第二百十五條 民事擔當人呼出狀ヲ受ケ公判、日  
時ニ出廷セサル時ハ理事及ヒ民事原告人、請求  
ニ因リ闕席裁判ヲ為ス可シ

民事原告人出廷セサル時亦同シ

第二百十六條 闕席裁判ニハ辯護人ヲ用フルコトヲ  
許サス

第二百十七條 闕席裁判ヲ為ス時ハ裁判長録事ヲ  
シテ公判、命令書及ヒ審事ノ報告書ヲ朗讀セシ  
ム可シ若シ其事件豫審ヲ經サル時ハ命令書朗讀

ノ後理事被告事件ヲ陳述ス可シ

第二百十八條 關席裁判ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル被告人ハ其宣告ニ對シ上告ヲ為ス可ヲ得ス

第二百十九條 關席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會議ノ門前ニ揭示ス可シ

罰金以下ノ刑ノ宣告書及ヒ私訴ノ裁判宣告書ハ理事及ヒ訴訟關係人ノ請求ニ因リ之ヲ關席シタル者若クハ其住所ニ送達ス可シ

第二百二十條 前章ノ規則ハ關席裁判ニ於テ亦之ヲ適用ス但本章特ニ其規則ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

## 第六編 再檢會議ノ裁判

### 第一章 上告

第二百二十一條 軍法會議ノ理事ハ左ノ條件ニ觸ル、者アリト認メタル時ハ裁判宣告ニ對シ上告ヲ為ス可シ被告人モ亦上告ヲ為ス可ヲ得刑ノ宣告ヲ受ケタル者逃走シタル時ハ上告ヲ為ス可ヲ得ス

被告人モ亦上告ヲ為ス可ヲ得但禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ逃走シタル者ハ捕ニ就クニ非サルハ上告ヲ為ス可ヲ得ス

一 軍法會議ノ構成規則ニ背キタル時

二 法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

三 事實及ヒ法律ニ依リ宣告ノ理由ヲ付セス若クハ其理由ニ齟齬アリタル時



四 法律ノ適用ヲ誤リタル時

軍中若ハハ臨戰合圍ハ地ニ於テハ上告ヲ許サス  
第二百二十二條 民事原告人被告人及ヒ民事擔當  
人ハ私訴ニ關スル裁判宣告ニ對シ前條ノ條件ニ  
照シ上告ヲ為スヲ得

第二百二十三條 上告ノ對手人ハ再檢會議ノ裁判  
アルニ至ルマテ附帶ノ上告ヲ為スヲ得

再檢會議ノ理事モ亦附帶ノ上告ヲ為スヲ得

第二百二十四條 上告ノ期限ハ三日トス但裁判宣  
告アリタルヨリ起算ス

第二百二十五條 裁判宣告ハ上告ノ期限内其執行  
ヲ停止ス若シ上告アリタル時ハ其裁判ニ至ルマ  
テ之ヲ停止ス但其宣告ニ因リ收禁釋放放免ス可

キ者ハ直ニ其處分ヲ為ス可シ

第二百二十六條 上告人及ヒ對手人ハ代言人ヲ用  
フルヲ得

第二百二十七條 上告ヲ為ス者ハ上告狀二通ヲ原  
軍法會議ノ錄事ニ出ス可シ

錄事ハ上告狀ヲ受領シタルヨリ二十四時内ニ一  
通ヲ對手人ニ送達ス可シ

第二百二十八條 上告ヲ為ス者ハ上告狀ヲ出シタ  
ルヨリ五日内ニ趣意書二通ヲ軍法會議ノ錄事ニ  
出ス可シ

錄事ハ趣意書ヲ受領シタルヨリ二十四時内ニ一  
通ヲ對手人ニ送達ス可シ

第二百二十九條 對手人ハ趣意書ヲ受領シタルヨ

リ五日以内ニ答辯書ニ通テ原軍法會議ノ録事ニ出ス可シ

録事ハ答辯書ヲ受領シタルヨリ二十四時内ニ一通テ上告人ニ送達ス可シ

第二百三十條 録事ハ前數條ニ定ムル所ノ期限ヲ經過シタル後速ニ上告書類訟書類ニ裁判宣告書公判始末書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ其軍法會議ノ理事ニ出ス可シ

理事ハ速ニ其書類ヲ所管ノ司令官ニ出シ司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ送致ス可シ

第二百三十一條 陸軍卿ハ上告事件ノ裁判ヲ為ス可キノ命令書ヲ裁判官ニ下付シ其謄本ヲ上告書類ト共ニ再檢會議ノ理事ニ下付ス可シ

理事ハ上告書類ヲ檢閲シタル後之ヲ裁判長ニ交付ス可シ

裁判長ハ判士中ヨリ專任判士一名ヲ命シ上告書類ヲ交付シ報告書ヲ作ラシム可シ

第二百三十二條 再檢會議ノ理事附帶ノ上告ヲ為ス時ハ趣意書ヲ專任判士ニ出ス可シ

第二百三十三條 再檢會議ノ理事ハ開庭ノ日時ヲ上告人及對手人ノ代言人ニ通報ス可シ

第二百三十四條 公庭ヲ開ク時ハ裁判官理事及ヒ録事各其席ニ就キタル後録事報告書ヲ朗讀ス若シ報告書ノ説明ヲ要スル時ハ專任判士其趣意ヲ陳述ス可シ

理事ハ趣意ヲ辯明シ且意見ヲ陳述ス可シ代言人

モ亦趣意ヲ辨明シ且答辯ヲ為ス可シ

私訴ノ上告ニ係ル時ハ理事最終ニ意見ヲ陳述ス可シ

第二百三十五條 前條ノ辨明陳述終リタル時ハ裁判長判士ト共ニ會議室ニ入り上告ノ當否ヲ議スヘシ

第二百三十六條 上告ノ條件破毀ス可キ理由ナシト決シタル時ハ之ヲ棄却スルノ宣告ヲ為ス可シ其條件破毀ス可キ理由アリト決シタル時ハ裁判宣告ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ軍法會議ニ移スノ宣告ヲ為ス可シ但事實覆審ヲ要セサル者ハ再檢會議ニ於テ直ニ裁判宣告ヲ為ス可シ

第二百三十七條 法律ニ於テ罰セサル所為ニ對シ

刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ定期内ニ上告スル者ナクシテ其裁判確定シタル時ハ再檢會議ノ理事陸軍卿ノ命令ニ因リ若クハ職權ヲ以テ非常上告ヲ為ス可シ

第二百三十八條 理事非常上告ヲ為スハ陸軍卿ニ具申シテ裁判ノ命ヲ請フ可シ

裁判ノ命令書ハ第二百三十一條ノ規則ニ從テ下付ス可シ  
第二百三十九條 理事ハ非常上告ノ趣意書ヲ裁判長ニ交付ス可シ

裁判官ハ會議室ニ於テ其當否ヲ議ス可シ

第二百四十條 非常上告ノ條件破毀スハキ理由アリト決シタル時ハ原裁判宣告ヲ破毀シ再檢會ニ於テ直ニ裁判宣告ヲ為ス可シ



少類聚

第二百三十六條第一項ノ規則ハ非常上告ニ於テモ亦之ヲ適用ス

第二百四十一條 裁判宣告ハ會議終リタル後公庭ニ於テ即日之ヲ為シ若クハ次日ニ之ヲ為ス可シ  
第二百四十二條 再檢會議ニ於テ上告ヲ棄却シ若シハ裁判宣告ヲ破毀シ直ニ裁判宣告ヲ為シタル時ハ理事其宣告書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ陸軍卿ニ具申シ陸軍卿ハ原軍法會議所屬ノ司令官ニ送致ス可シ  
軍法會議所屬ノ司令官ハ再檢會議ノ宣告書ノ謄本ヲ理事ニ下付シ第二百六十<sup>五</sup>條第二百六十<sup>四</sup>條ノ規則ニ從テ處分可シ  
第二百四十三條 再檢會議ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ軍法會議ニ移スノ宣告ヲ為シタル時ハ理事其宣告書ノ謄本ニ上告ニ關スル書類ヲ添ヘ之

ヲ陸軍卿ニ具申シ陸軍卿ハ其軍法會議所屬ノ司令官ニ送致ス可シ  
又陸軍卿ハ其宣告書ノ謄本ヲ原軍法會議所屬ノ司令官ニ送致シ司令官ハ之ヲ理事ニ下付ス可シ

第二百四十四條 原軍法會議ノ理事ハ錄事ヲシテ再檢會議ノ宣告書ヲ被告人ニ讀示セシム可シ  
私訴ノ上告ニ係ル時ハ其宣告書ノ謄本ヲ民事原告人民事擔當人ニ送達ス可シ

第二百四十五條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ノ裁判宣告ニ對シテハ上告ヲ許サス  
第二百四十六條 再檢會議ノ法律ニ係ル裁判ハ確定ノ者トス

第二百四十六條 再檢會議ニ於テ公庭ヲ開ク時ハ

第百五十九條第百六十條第百六十二條、規則ニ  
從フ可シ

第二章 再審ノ訴

第二百四十條 再檢會議ノ理事及ヒ刑ノ宣告ヲ  
為シタル軍法會議、理事左ノ條件ヲ覺擧シタル  
時ハ裁判確定ノ後其宣告ニ對シ被告人ノ利益ノ  
為メ再審ノ訴ヲ為ス可シ若シ陸軍卿其條件ヲ覺  
擧シタル時ハ再檢會議ノ理事ニ命シテ再審ノ訴  
ヲ為サシム可シ

刑ノ宣告ヲ受ケタル者モ亦再審ノ訴ヲ為スヲ得  
得若シ刑ノ宣告ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其  
親屬之ヲ為スヲ得

一 人ヲ殺シタル罪ニ因リ刑ノ宣告アリタル後

當時殺サレタリト認メシ者現ニ生存シ若ク

ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタル時

二 同一ノ事件ニ因リ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ

宣告ヲ受ケタル者アリタル時

三 刑ノ宣告ヲ受ケタル者公正ノ證書ヲ以テ當  
時其犯罪アルノ地ニ在ラサルヲ證明シタ  
ル時

四 被告人ヲ陷害スル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケ  
タル者アリタル時

五 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造若クハ錯  
誤アルヲ證明シタル時

第二百四十一條 再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタル時ト  
雖モ仍ホ之ヲ為スヲ得

第二百五十九條 再審、訴ヲ為ス者ハ其趣意書ヲ  
裁判宣告書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ原軍  
法會議ノ録事ニ出シ録事ハ之ヲ理事ニ出ス可シ  
第二百五十一條 軍法會議ノ理事ハ再審、訴ニ關ス  
ル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ所管ノ司令官若クハ  
軍團師團旅團ノ長ニ出ス可シ  
理事自カラ再審ノ訴ヲ為ス時ハ亦趣意書證憑書  
類ヲ其司令官團長ニ出ス可シ  
司令官團長ハ其書類ヲ陸軍卿ニ送致ス可シ  
第二百五十二條 再檢會議ノ理事再審ノ訴ヲ為ス  
時ハ直ニ趣意書證憑書類ヲ陸軍卿ニ出ス可シ  
第二百五十三條 陸軍卿ハ再審ノ訴ヲ裁判ス可キ  
ノ命令書ヲ裁判官ニ下付シ其謄本ヲ再審ノ訴ニ

關スル書類ト共ニ再檢會議ノ理事ニ下付ス可シ  
理事ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ裁判長ニ交付  
ス可シ  
裁判長ハ判士中ヨリ專任判士一名ヲ命シ再審ノ  
訴ニ關スル書類ヲ交付シ報告書ヲ作ラシム可シ  
第二百五十四條 裁判官ハ會議室ニ於テ專任判士  
ノ報告書及ヒ理事ノ意見書ニ依リ再審ノ訴、當  
否ヲ議ス可シ  
第二百五十五條 再審ス可キ理由アリト決シタル  
ハ其原裁判宣告ヲ破毀シ再審ヲ為ス可キヲ宣  
告シ且其事件ヲ他ノ軍法會議ニ移スノ宣告ヲ為  
ス可シ  
理事ハ其宣告書ノ謄本ニ再審ノ訴ニ關スル書類



公文書館

ヲ添ハ陸軍卿ニ具申シ陸軍卿ハ之ヲ其軍法會議  
所屬ノ司令官團長ニ送致ス可シ

又陸軍卿ハ其宣告書ノ謄本ヲ原軍法會議所屬ノ  
司令官團長ニ送致シ司令官團長ハ之ヲ理事ニ下  
付スヘシ

第二百五十<sup>六</sup>條 再審ス可キ理由アリト雖モ刑ノ  
宣告ヲ受ケタル者死去シタル時ハ止テ原裁判宣  
告ヲ破毀スルノ宣告ヲ為ス可シ

其宣告書ノ謄本ハ前條三項ノ規則ニ從テ送致ス  
可シ

又其謄本ハ陸軍卿理事ヲシテ再檢會議ノ門前ニ掲  
示セシム可シ

第二百五十<sup>七</sup>條 再審ス可キ理由ナシト決シタル

時ハ其訴ヲ棄却スルノ宣告ヲ為ス可シ

其宣告書ノ謄本ハ第二百五十<sup>四</sup>條第三項ノ規則  
ニ從テ送致ス可シ

第二百五十<sup>八</sup>條 原軍法會議ノ理事ハ録事ヲシテ  
再檢會議ノ宣告書ヲ前ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル者  
ニ讀示セシム若シ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノ死去  
シタル時ハ宣告書ノ謄本ヲ其親屬ニ送達ス可シ

第二百五十<sup>九</sup>條 再檢會議ヨリ送付ヲ受ケタル軍  
法會議ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ再審ノ裁判ヲ

為ス可シ但原裁判ヨリ重キ刑ヲ宣告ス可カラス

第二百五十<sup>十</sup>條 再檢會議ヨリ送付ヲ受ケタル軍  
法會議ニ於テ再審ノ裁判ニ因リ無罪ノ宣告ヲ為

シタル時ハ理事宣告書ヲ添ヘ之ヲ司令官若クハ

又司令官團長ハ其宣告書、謄本ヲ原軍法會議所  
屬ノ司令官團長ニ送致シ其司令官團長ハ之ヲ理  
事ニ下付ス可シ

第二百六十一條 第二百四十條 第二百四十條ノ  
規則ハ本章ニ於テ亦之ヲ適用ス

第七編 裁判執行復權特赦

第一章 裁判執行

第二百六十條 刑ノ執行ハ裁判確定ノ後ニ非サ  
レハ之ヲ為ス可カラス

第二百六十條 刑ノ宣告確定シタル時ハ理事裁

判宣告書訴訟書類ヲ<sup>陸軍卿</sup>司令官若クハ軍團師  
團旅團ノ長ニ出シテ執行ノ命令ヲ請フ可シ

第二百六十條 死刑ヲ執行スル時ハ司令官軍團  
師團旅團ノ長裁判宣告書訴訟書類ヲ陸軍卿ニ出  
シテ執行ノ命令ヲ請フ可シ

軍中若クハ合團ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル  
時ハ其命令ヲ請フ可シ

死刑ヲ執行ス可キ命令アリタル時ハ理事三日内  
ニ其處分ヲ為ス可シ

第二百六十條 死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ為ス  
時<sup>陸軍卿</sup>司令官若クハ軍團師團旅團ノ長其命令ヲ下  
シ理事直ニ其處分ヲ為ス可シ

軍團師團旅團ノ長若クハ合團ノ地ノ司令官ハ輕

分  
類  
刑  
罰  
法  
第  
二  
章  
復  
權

罪、刑ニ處シタル者ニ戴罪服役ヲ命スルヲ得  
戴罪服役ノ月日ハ刑期ニ算入ス可カラス

第二百六十<sup>六</sup>條 理事ハ裁判費用ヲ徴收シ押收ノ  
物件及ヒ犯人ノ手ニ在ル駐物ハ之ヲ所有主ニ還  
付ス可シ

破毀若クハ廢棄ス可キ沒收物品ハ之ヲ處分ス可  
シ

第二百六十<sup>七</sup>條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可  
キ裁判費用ニ關スル宣告ノ執行ハ通常民事ノ規  
則ニ從フ

第二百六十<sup>八</sup>條 行刑ニ關スル方法ハ別ニ規則ヲ  
以テ之ヲ定ム

第二百六十<sup>九</sup>條 裁判確定シ若クハ開席裁判ヲ為

シタル時ハ其軍法會議ノ理事刑ノ宣告書ノ謄本  
ヲ所管ノ司令官若クハ軍團師團旅團ノ長ニ出シ  
司令官團長ハ之ヲ陸軍卿ニ出ス可シ

第二百六十<sup>十</sup>條 刑ノ宣告ヲ受ケタル者逃走シタ  
ル時ハ理事勾引狀ヲ發シ憲兵<sup>ヲ</sup>シテ之ヲ執行セ  
シム若シ其所在ヲ覺知スルヲ能ハサル時ハ第百  
二條ノ規則ニ從テ處分ス可シ

第二章 復權

第二百七十<sup>一</sup>條 復權ノ願ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者  
普通刑法第六十三條ニ記載スル所ノ期限ヲ經過  
スルノ後陸軍卿ニ之ヲ為ス可シ

復權ノ願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ現ニ住  
スル地ヲ管轄スル軍法會議ノ理事ニ出ス可シ



公文書類

第二百七十一條 復権ノ願書ニハ左ノ書類各二通ヲ添フ可シ

一 裁判宣告書ノ謄本

二 主刑ノ満期特赦若クハ期滿免除ト為リタル  
一ヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタル證書

四 賠償及ヒ裁判費用ヲ辨済シ若クハ其義務ヲ免レタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第二百七十一條 理事ハ願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ為シ意見書ヲ作り復権ノ願ニ関スル書類ニ添ヘ之ヲ諸官ノ司令官ニ出シ司令官ハ之ヲ陸軍

卿ニ出ス可シ

第二百七十一條 陸軍卿復権ノ願ヲ允許ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ

第二百七十一條 勅裁若クハ陸軍卿ノ意見ニ因リ復権ノ願ヲ棄却シタル時ハ陸軍卿其願書ヲ司令官ニ却下ス可シ

司令官ハ其願書ヲ理事ニ下付シ理事ハ棄却ノ旨ヲ本人ニ告示ス可シ

復権ノ願ヲ棄却セラレタル者ハ普通刑法第六十三條ニ記載スル所ノ期限ノ半ヲ過經スルニ非サレハ更ニ其願ヲ為スコヲ得ス

更ニ復権ノ願ヲ為ス時ハ亦前數條ノ規則ニ從フ可シ

第二百七十一條 復権ノ裁可アリタル時ハ陸軍卿

明治十六年

分類

裁可狀ヲ願書ヲ出シタル司令官ニ送致ス可シ  
司令官ハ裁可狀ヲ理事ニ下付シ理事ハ其謄本ヲ  
本人ニ下付ス可シ

又理事ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ為シタル軍  
法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告  
書ニ記入ス可シ

### 第三章 特赦

第二百七十九條 特赦ハ刑ノ宣告ヲ為シタル軍法  
會議ノ理事司獄官吏若クハ犯人所屬ノ長官及ヒ  
隊長裁判確定ノ後犯人ノ情狀ヲ具シ陸軍卿ニ上  
申スルヲ得但上申書ハ之ヲ司令官ニ出ス可シ  
軍團若クハ獨立師團ニ於テハ其團長ニ上申シ合  
團ノ地ニ於テハ其司令官ニ上申スルヲ得團長

司令官ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍卿ニ送致ス可シ  
所屬ノ長官隊長若クハ司獄官吏特赦ヲ上申スル  
時ハ理事ヲ經由シ理事ハ意見書ヲ添フ可シ

陸軍卿ハ上申書類ニ意見書ヲ添ヘ奏請ス可シ  
第二百七十條 陸軍卿ハ特赦ヲ請フ可キ者ト認  
メタル時ハ上申ヲ特々ス裁判確定ノ後自ラ犯人  
ノ情狀ヲ具シテ之ヲ陸軍卿ニ送致シ陸軍卿特赦  
ヲ奏請ス可シ

第二百七十九條 特赦ノ奏請及ヒ上申アリド雖モ  
刑ノ執行ヲ停止ス可カラス但死刑ハ其執行ヲ停  
止スヘシ

第二百八十條 特赦ノ奏請ヲ棄却セラレタル時  
ハ陸軍卿其旨ヲ犯人所屬ノ團長若クハ司令官ニ



通報シ其團長司令官ハ之ヲ理事ニ告知ス可シ

第二百八十一條 特赦ノ裁可アリタル時ハ陸軍卿特  
赦狀ヲ犯人所屬ノ團長若クハ司令官ニ送致シ其  
團長司令官ハ特赦狀ヲ理事ニ下付ス可シ  
理事ハ特赦狀ノ謄本ヲ犯人ニ下付シ且裁判宣告  
書ニ記入ス可シ

第二百八十二條 犯人所屬ノ長官隊長若クハ司獄  
官吏特赦ノ上申ヲ為シタル時ハ理事其棄却若ク  
ハ裁可ノ旨ヲ上申ヲ為シタル者ニ通報スヘシ

第八編 司憲裁判

第一章 司憲裁判所ノ構成及ヒ権限

第二百八十三條 司憲裁判所ハ憲兵本部及ヒ各屯  
所ヲ以テ之ニ充ツ

第二百八十四條 司憲裁判所ノ編制左ノ如シ

裁判官 一名

理事 一名

録事 一名

第二百八十五條 裁判官ノ職務ハ憲兵ノ將校之ヲ  
行フ

理事ノ職務ハ憲兵ノ將校下士之ヲ行フ

録事ノ職務ハ憲兵ノ下士之ヲ行フ

第二百八十六條 裁判官ノ職務ハ被告人ト同級以  
上ノ者ニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス  
理事ノ職務モ亦被告人ト同級以上ノ者之ヲ行フ  
可シ但同級以上ノ者無キ時ハ次級ノ者ヲ以テ之  
ニ充ツルヲ得



被告人ノ官等ニ因リ裁判ヲ為スコトヲ得サル時ハ之ヲ所管ノ司令官ニ具申シ軍中ニ於テハ其軍團師團旅團ノ長ニ具申ス可シ

被告人海軍ノ軍人軍屬ナル時ハ亦本條ノ例ニ從フ

第二百八十<sup>七</sup>條 司憲裁判所ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル軍人ノ違警罪ヲ裁判ス

軍中若クハ臨戰合圖ノ地ニ於テハ從軍諸員將虜降人及ヒ浮浪ノ徒ノ犯シタル違警罪及ヒ六月以下ノ禁錮五十<sup>圓</sup>以下ノ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪モ亦之ヲ裁判ス

第二百八十<sup>八</sup>條 司憲裁判所ハ憲兵ノ管區ヲ以テ其管轄トス

第二百八十<sup>九</sup>條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ違警罪ヲ犯シタル時ハ司憲裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二章 司憲裁判所ノ公判

第二百九十<sup>十</sup>條 司憲裁判所ニ於テ告訴告發若クハ被告事件ノ送致ヲ受ケタル時ハ速ニ裁判ヲ為ス可シ

第二百九十<sup>一</sup>條 被告人民事原告人及ヒ民事擔當人ハ呼出狀ヲ發シテ之ヲ呼出ス可シ

呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ官名隊号氏名住所出廷ノ日時及ヒ被告事件ヲ記ス可シ但禁錮ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ送達スル呼出狀ヲ除クノ外代人ヲシテ出廷ヤシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ記ス可シ

公文書類聚

第二百九十四條 裁判官ハ先ツ被告人ノ官位勲等  
隊号職名族籍氏名年齢住所出生ノ地ヲ訊問ス可  
シ

調書若クハ告訴告發書アル時ハ録事ヲシテ之ヲ  
朗讀セシム可シ

理事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

第二百九十五條 裁判官ハ被告人ニ被告事件ヲ承  
認スルヤ否ヲ訊問ス可シ

第二百九十六條 被告人ノ白狀アリタル時ハ別ニ  
證據ヲ出スヲ要セズ但裁判官ハ理事及ヒ民事

原告人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ之ヲ出サ  
シムルヲ得

白狀ナキ時ハ原被ノ證人ヲ訊問シ且證據物件ヲ

ル時ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ為サシム可シ

第二百九十四條 理事ハ法律適用ノ為ノ意見ヲ陳述ス  
可シ

民事原告人ハ被告事件ヲ證明シ及ヒ要償ノ為ノ意見  
ヲ陳述ス可シ

被告人民事擔當人ハ答辯ヲ為スヲ得

第二百九十五條 被告人民事擔當人呼出狀ヲ受ケ  
公判ノ日時ニ出廷セサル時ハ理事及ヒ民事原告

人ノ請求ニ因リ關席裁判ヲ為ス可シ

民事原告人出廷セサル時亦同シ

第二百九十六條 被告事件違警罪ニシテ證據完全ナル  
時ハ法律ニ從ヒ刑ノ宣告ヲ為ス可シ

明治十六年

シタル犯罪ニシテ證據完全ナル時ハ亦刑ノ宣告ヲ為ス可シ  
被告事件第百九十九條ニ該ル時ハ無罪ノ宣告  
ヲ為シ其第三ニ該ル時ハ免訴ノ宣告ヲ為ス可シ  
第百九十七條 被告事件輕罪以上ニシテ其管轄  
ニ非サル時ハ訴訟書類ヲ所管ノ司令官若クハ軍  
團師團旅團ノ長ニ送致ス可シ  
但其被告人ニ對シ令狀ヲ發スルヲ得  
第百九十八條 裁判宣告書ハ第百條第百一  
條ノ規則ニ從テ作ル可シ  
第百九十九條 裁判宣告ハ裁判官理事録事各其  
席ニ就キ裁判官之ヲ為ス可シ  
第百條 訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ裁判宣告書  
ノ謄本若クハ其拔書ヲ求ムルヲ得

關席裁判ノ宣告書ハ理事及ヒ訴訟關係人ノ請求  
ニ因リ之ヲ關席シタル者若クハ其住所ニ送達ス  
可シ

第三百十條 第百五十九條第百六十八條第百八十  
九條第百三條第百五條ノ規則ハ司憲裁判ニ  
於テ亦之ヲ適用ス

第三百十條 證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第  
五編第一章ノ規則ニ從テ處分ス可シ但本章特ニ  
其規則ヲ定ムタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 違警罪事件ニ係ル證人鑑定人及ヒ通  
事ノ呼出狀ニハ其官名隊號氏名住所出頭ノ日時  
及ヒ呼出ニ應セサル時ハ料料ヲ料ス可キヲ記  
ス可シ又證人ノ呼出狀ニハ出廷セサル時ハ引致



スルヲアル可キ旨ヲ記ス可シ

證人鑑定人通事軍人ニ非サル時ハ呼出狀、送達ト出廷ト、間二十四時以上ノ猶豫ヲ為ス可シ但軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ此限ニ在ラス又呼出ヲ受ケサル者ト雖モ訊問前名刺ヲ録事ニ通シタル時ハ證人トシテ其陳述ヲ聽クヲ得

第三百<sup>五</sup>條 證人鑑定人通事故ヲ呼出ニ應セサル時ハ裁判官理事、意見ヲ諮ヒ何人ヲ論セス五十錢以上一圓九拾五錢以下ノ料料ヲ科スルノ宣告ヲ為ス可シ

其宣告書ハ再度、呼出狀ト共ニ之ヲ送達ス可シ再度、呼出ニ應セサル時ハ二倍ノ料料ヲ科スルノ宣告ヲ為ス可シ

第三百<sup>六</sup>條 證人鑑定人通事呼出ニ應セサル時ハ

裁判官理事及ヒ訴訟關係人ノ請求ニ因リ若クハ職權ヲ以テ公判ヲ延期スルヲ得但證人出廷セサルニ因リ公判ヲ延期シタル時ハ之ヲ引致ス可シ

第三百<sup>七</sup>條 司憲裁判所ノ宣告ハ直ニ之ヲ執行シ上告ヲ許サス

第三百<sup>八</sup>條 理事ハ宣告ノ執行ヲ指揮ス

證人鑑定人及ヒ通事ニ料料ヲ科スル時ハ普通刑法第三十條ノ規則ニ從フ但料料ヲ拘留ニ換フル時ハ理事ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス

第三百<sup>九</sup>條 裁判終リタル時ハ理事宣告書ノ謄本ヲ其所管ノ司令官若クハ軍團師團旅團ノ長ニ出シ司令官團長ハ之ヲ陸軍卿ニ出ス可シ

分  
別  
類  
別

第三百九條 理事ハ三月毎ニ既決表ヲ作り軍管司令官若クハ營所司令官ニ出し司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ出ス可シ

參議山縣有朋大山巖議按

陸軍治罪法成按既ニ參事院ノ審議ヲ經タリ而シテ今更ニ閣議ヲ要スル者アリ  
陸軍治罪法ハ實ニ普通治罪法ニ模範ヲ取ル者多シ  
普通治罪法ノ公布以來其實地ニ不便ナルヲ以テ特別ニ布告ヲ發シテ其施行ヲ停ルル者アリ法ノ空文ヲ存シテ實際相反スル者アリ治罪法精髓ノ存スル所ハ既ニ抹殺ニ付スト謂フト雖モ可ナリ而シテ地方各官猶且ツ治罪新法ノ現今事情ニ適セスシテ行政ヲ障害スルコトヲ論スル者多シ是レ普通治罪法

ノ既ニ經驗スル所ニシテ陸軍治罪法ノ未々發セサルニ當テ宜シク豫メ講究スヘキ所ナリ且ツ陸海軍法ハ宜シク簡ニスヘクシテ宜シク煩ニスヘカラス  
繁文曲節實際ニ適ヤサルカ如キハ殊ニ軍律軍法ノ避クヘキ所ナリ此原則ヲ以テスルニ第一陸軍治罪法ノ公判ハ宜シク傍聽ヲ許スヘカラス第二陸軍軍法會議ハ宜シク私訴即チ要シ受理スヘカラス第三陸軍人ノ被告者ハ代言ヲ許スヘカラス第四陸軍ノ審判ハ控訴上告ヲ許スヘカニスレテ之ニ易フルニ判決宣告ノ前申惠請識スルノ法ヲ以テスヘシ第五恩赦ハ

帝室ノ大權ニシテ宜シク法律ヲ以テ其處分ヲ紀スヘカラス第六臨戰合圍ノ地ニ在テハ關外ノ重寄ニ

任シタル團長、專權ニ委シ其レヲシテ法章ヲ省略  
シ臨機簡易ノ處分ヲナサシムルヲ得ヘシ其他總  
テ繁ヲ去リ簡ニ就クコトヲ務メ以テ空文ノ弊ヲ免  
ルヘシ今參事院審定スル所ノ成案ニ就キ再ヒ之ヲ  
刑省修正シテ以テ閣議ヲ仰キ更ニ參事院ノ再議ニ  
付セントス 十六年五月

參事院再議按 第二局 査査

陸軍治罪法制定ノ件 査査スル處左ノ如シ  
陸軍治罪法ハ曩ニ本院ノ議ヲ經既ニ一回上申シ  
タリ然ルニ普通治罪法公布以來實地ニ不便ナル  
ヲ以テ特ニ布告ヲ發シテ當分ノ便宜法ヲ施設セ  
レタルモノ少カラス陸軍治罪法ニ於テモ亦豫メ  
其用意ナカルヘカラサルト軍律ハ繁文曲節ヲ避

クヘキトヲ以テ之ニ刑省ヲ加ヘテ再ヒ本院ノ議  
ニ付セラレタリ由テ其旨ヲ依シ更ニ冗ヲ汰シ缺  
ヲ補ヒ行文ノ穩ナテサルモノハ朱書ヲ以テ之ヲ  
修正ス

右ニ由リ布告案別冊ノ通ニテ可然哉上申候也 十六年  
月十一日

參議山縣有朋稟告

參事院上申陸軍治罪法成按ヲ査査スルニ條款中總  
當ナラサル處モ古之候ニ付別冊朱書挿入ノ通次裁  
相成度此段意見開申候也 十六年六月

陸軍治罪法

陸軍治罪法目錄

第一章 總則

明治十六年



公文書館

第二章 軍法會議、構成

第三章 軍法會議、權限

第四章 陸軍檢察

第五章 審問

第六章 判決

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 陸軍軍人、犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議

ニ於テ之ヲ審判ス其民事ハ受理セス但官物ノ損ニタルノ賠償ハ此限ニ在ラス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其宣告ヲ為ス時ハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ

掲クル者ヲ謂フ

第四條 司令官ト稱スルハ軍團長師團長旅團長軍

管司令官營所司令官及合團ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四

條第十八條（第百條第百一）規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用

第六條 現行犯罪及ト准現行犯ノ場合ハ普通治罪

法ノ例ニ依ル

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍

法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ル

コトヲ得ス

第二章 軍法會議、構成

明治十六年

第廿七條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數箇ヲ設

ク

軍中ニ於テハ軍團師團旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合  
團ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第廿八條 軍法會議ニハ判士長判士理事理事補審事

審事補錄事ヲ置ク

第廿九條 軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト為シ尉官

三名理事理事補ノ内一名ヲ以テ判士トス但被告

人<sup>准判士</sup>尉以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表

ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

| 判士長  | 判士                      | 被告人                                                |
|------|-------------------------|----------------------------------------------------|
| 佐官一名 | 判士官<br>理中大事尉尉<br>理中大事尉尉 | 陸海軍少尉以上 <sup>准判士</sup> 及ヒ同等ノ軍人軍屬<br>陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 佐官一名 | 理中大事尉尉<br>理中大事尉尉        | 陸海軍少尉及ヒ同等ノ軍人軍屬<br>陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬                   |

|      |                  |                |
|------|------------------|----------------|
| 中佐一名 | 理中大事尉尉<br>理中大事尉尉 | 陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 大佐一名 | 理中大事尉尉<br>理中大事尉尉 | 陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 少將一名 | 理中大事尉尉<br>理中大事尉尉 | 陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 中將一名 | 理中大事尉尉<br>理中大事尉尉 | 陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 中將一名 | 理中大事尉尉<br>理中大事尉尉 | 陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 大將一名 | 理中大事尉尉<br>理中大事尉尉 | 陸海軍中將及ヒ同等ノ軍人軍屬 |
| 大將一名 | 理中大事尉尉<br>理中大事尉尉 | 陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬 |

第卅十條 將官ヲ以テ判士長判士ト為ス時ハ陸軍

卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト為ス時ハ陸軍卿之ヲ命

ス尉官ヲ以テ判士ト為ス時モ亦同シ

第卅一條 軍團長及ヒ獨立師團長ハ部下ノ將校ニ

其軍法會議ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得若シ

理事審事缺員スル時ハ部下ノ將校ニ命シテ其職  
務ヲ行ハシメ録事缺員スル時ハ下士ニ命シテ其  
職務ヲ行ハシムルコトヲ得

臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官部下ノ將  
校若クハ其地ニ在ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ  
置キ被告人ノ官等ニ拘ハラス之ヲ審判セシム但  
將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ヲ補  
充スルコトヲ得

第十二條 軍營軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツ  
可キ將校缺員スル時ハ軍管司令官ノ上申ニ依リ  
陸軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他  
ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ為サシム

第三章 軍法會議ノ権限

第十三條 軍法會議ハ其軍管若クハ師管ノ所管地  
方ヲ以テ管轄ト為ス

第十四條 軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタ  
ル時ハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコト  
ヲ得

第十五條 軍人數箇ノ軍法會議ノ管轄地内ニ於テ  
數次重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ被告人ヲ逮捕シタ  
ル地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十六條 軍團師團旅團軍法會議ハ其團所屬軍人  
ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第十七條 合圍ノ地ノ軍法會議ハ軍人ニ非タル雖  
亦裁嚴令第十一條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者  
亦之ヲ審判ス



第二十三條 轉ス

第十九條

臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢ス

トニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ陸軍卿ノ指  
定ナル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司  
ニ送致ス可シ

第二十條

俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會

議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十一條

軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官

現役中發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺

スル者ハ司法裁判ニ付ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ

犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之

ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發覺スル者ハ

司法裁判ニ付ス

第二十二條

軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其

管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ着手シタル軍

法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍々人軍屬ト共犯ニ

係ル時モ亦同シ

第二十三條

軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕

罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十四條

陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ

非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ

發シタル者モ亦同シ

第二十五條

軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ發シタル

違警罪モ亦之ヲ審判ス

第二十六條

臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢

明治十六年

陸軍卿

スルニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ陸軍卿ノ  
指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官  
司ニ送致ス可シ

#### 第四章 陸軍檢察

第二<sup>四</sup>條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查  
シ證據ヲ拾收ス

第二<sup>五</sup>條 陸軍檢察ハ左ニ記列スル諸官司令官  
ノ命令ヲ受ケテ<sup>陸軍檢察ノ職務ヲ行フ</sup>檢令圖ノ地ニ於テハ其  
他司令官ノ命令ヲ受ケ

要塞副官若クハ衛守副官

憲兵ノ將校下士

衛兵司令

職務ヲ行フニ當リ現行犯アルヲ知リタル審

事

砲兵工兵ノ監護

第二<sup>六</sup>條 要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊  
長及ニ各所管ノ長官ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコ  
トヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ為シ若クハ陸  
軍檢察官ニ委シテ其處分ヲ為サシムルコトヲ得  
審事其職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタ  
ル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ為スコトヲ得

第二<sup>七</sup>條 何人ヲ論ヒテ軍人ノ犯罪ニ因リ損害  
ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地  
ノ陸軍檢察官被告人所屬ノ長官隊長若クハ司法  
警察官ニ告訴ス可シルコトヲ得

第二<sup>八</sup>條 何人ヲ論セズ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタル時

分類  
刑罰  
刑罰  
刑罰

第二十八條ニ記載シタル官吏ニ告發スルコトヲ得

第三十條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ重罪

輕罪ヲ犯ス者アルコトヲ知リタル時ハ其職務ヲ行フ地

ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ告發可シ

第三十條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人

ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍檢察

官司法警察官憲兵卒若クハ巡查ニ交付ス可

シ

第三十條 司法警察官憲兵卒及ヒ巡查現行犯ノ

軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ

之ヲ陸軍檢察官ニ引致ス可シ

第三十條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ヲ受

本條ニ會  
於テ則  
雖モ更  
ス可シ

ケタル時ハ速ニ陸軍檢察官若クハ被告人所屬

ノ長官隊長ニ交付ス可シ

第三十條 告訴人告發人ハ願下ヲ為シ若クハ其

迷ハ所ヲ變更セシメタルコトヲ得

第三十條 陸軍檢察官軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯

アルコトヲ知リタル時ハ直ニ犯所ニ臨檢シ犯罪

人ヲ逮捕シ訊問ヲ為シ其調書ヲ作ル可シ

其引致ヲ受ケタル時モ亦同シ

第三十條 陸軍檢察官要塞司令官次官衛戍司令

官諸隊長分遣隊長各所管ノ長官檢察ノ處分ヲ為

シタル時ハ調書ヲ作り證憑文書ヲ添ヘ之ヲ司令

官ニ具申ス可シ

第五章 審問

明治十六年



第三十六條

司令官被告事件、具申ヲ受ケタル時

ハ左ノ諸項ヲ除クノ外事件ノ難易ニ從ヒ理事ニ  
下付シ審事ヲシテ其審問ヲ為サシメ若クハ直ニ  
其判決ニ付ス可シ

被告人以上長官以上ナル時ハ軍管司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ具申ス可シ

第三十條 陸軍卿審問ノ命令ヲ下ス時ハ其事件ヲ司令官ニ交付シ司令官ハ之ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十<sup>八</sup>條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官被告人ノ官等ニ拘ハラス直ニ其審問ノ命令ヲ下スコトヲ得

第三十九條  
審事審問ヲ為ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス

其被害人出廷タル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十二條 合侯

審事ハ召喚狀ヲ受クハ并被告入其軍

法會議、管轄地外、在九時、其所在、地、審事

若ハ小司法敬察官ニ其處分ヲ囑託スルヲ得

第四十條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日  
時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十條 審事ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ

被告入罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十二條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可  
キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ陸軍檢察官  
若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十中條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人其軍法會議<sup>連</sup>中<sup>地</sup>轉<sup>地</sup>外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十本條 審事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申スヘシ

司令官ハ各軍管司令官營所司令官及ヒ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ  
<sup>第四十二條ニ合候ス</sup>  
<sup>第四十六條</sup> 勾引狀ヲ受ケ可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ陸軍檢察官若クハ司法警察官ニ

令シテ之ヲ執行スルヲ得

第四十本條 審事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得  
收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ

第四十本條 審事ハ事實審明ノ為メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ為スコトヲ得其處分ヲ為ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ  
若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十本條 審事ハ事實審明ノ為メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關

公文書類聚

係アル性復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコ  
トヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地第四十六條審  
事若シ創ニ依ルニ項ノ創ニ依ル法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ  
得

第四十條 審事ハ証人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ  
得

証人皇族若シハ勅任官ナル時ハ審事録事ト共ニ其所在ニ就テ陳述ヲ  
證人其軍法會議ノ管轄地外ニ住スルカ又ハ遠隔  
ノ地ニ住スル時ハ其地ノ審事若シハ司法警察官  
ト其處分ヲ囑託スルコトヲ得

証人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ証明シタル時ハ審  
事其所在ニ就テ之ヲ証明シタル時ハ審事其所在ニ就テ之  
證人若シ遠隔ノ地ニ住スル時ハ其地ノ審事若シハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得  
訊問シタル時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ得

第五十一條 證人皇族若シハ勅任官ナル時ハ審事

條目ヲ續  
シ合候ス

録事ト共ニ其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可ト

第四十九條 審事ハ被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ為ス時

ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ録  
取シ被告人若シハ證人ニ讀示セシメ其陳述シタ  
ル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ  
署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ  
被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減セシコトヲ  
請求スルコトヲ得

第五十條 審事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分  
明ナラシムル為メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ  
職業ニ因リ鑑定マルコトヲ得可キ者ニ命シテ其  
鑑定ヲ為サシム可シ  
鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ為

明治十六年



分文書類

シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ

第五十條 審事ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ

證明シテ其呼出ニ應セサル時ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但審事ハ其證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

證人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百八十條ニ依リ又鑑定人鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

通事宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ譯述ヲ肯セサル時ハ四圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第五十條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フ

ル時亦審事之ヲ命ス

第五十六條 證人鑑定人通事ハ旅費日當ヲ要ムルカヲ得但鑑定人ハ旅費日當ノ外鑑定ニ要ムル費用ヲテハ之ヲ要ムルヲ得

第五十條 審事審問ニ於テ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ

共犯ヲ覺舉シタル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十條 審事審問ヲ終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添ヘ訴訟文書ト共ニ之ヲ理事ニ交付シ理事ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

第六章 判次

明治十六年

第五十<sup>五</sup>條 司令官ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書  
ヲ判士長ニ下シ其謄本ヲ訴訟文書ト共ニ理事ニ  
下付シ理事ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ  
判士ニ通報ス可シ

第五十<sup>六</sup>條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士録事  
各其席ニ著キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム  
判士長ハ先ツ被告人ノ官位勲等隊號職名氏名族  
籍年齡ヲ問ヒ訊問ヲ為スノ旨ヲ告示シ録事ヲシ  
テ審事ノ報告書ヲ朗讀セシム  
其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ  
若クハ判士ニ命シテ其訊問ヲ為サシム  
第五十<sup>七</sup>條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令  
狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ為メ其處置ヲ為スコ  
トヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ  
為シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ為サシム可シ  
法廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第  
五章ノ例ニ依ル

第五十<sup>八</sup>條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷  
ノ命ニ應セサル時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病若ク  
ハ正當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサルコトヲ證  
明シタル時ハ判士長ハ其審判ヲ延期スルコトヲ  
得

第五十<sup>九</sup>條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シ  
テ審判ノ日時ニ出廷セス若クハ逃走シテ召喚狀

ラ送達スルコトヲ得サル時ハ關席裁判ヲ為ス可シ

第六十條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受テ審判ノ日時ニ出廷セサル時ハ關席裁判ヲ為ス可シ

第六十一條 數人共犯ノ審判ヲ為ス時ハ被告人中關席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ為ス可シ

第六十二條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ訊問セシム可シ證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ判士長ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ為シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ

為サシメ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

其處分ヲ為シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得

第六十三條 法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ判士長ハ其處分ヲ為シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ為サシム可シ

法廷ニ於テ共犯ヲ覺察シタル時ハ判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

若シ餘罪ヲ覺察シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ為ス可シ但判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第六十四條 被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ判士長ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタルノ旨ヲ告ケ被告人



ヲ退延セシム可シ

第六十<sup>五</sup>條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事共ニ署名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス理事ハ訴訟文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

一 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證憑及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス

二 無罪ノ判決書ニハ被告事件罪ト成ラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證憑備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス

三 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト為リタルコト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス

四 被告人ノ官位勲等隊階職名氏名族籍年齢住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス

第六十<sup>六</sup>條 司令官ハ左ニ記列スルノ事件ハ陸軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス但管所司令官ハ士官以上ノ犯罪ハ軍管司令官ニ上申ス可シ

死刑

上長官以上ノ重罪輕罪

士官ノ重罪

第六十<sup>七</sup>條 司令官其判決據ヲ不適當ト思量スル時其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ陸軍卿ニ上

申ス可シ

第六十九條 陸軍卿ハ司令官ヨリ具申スル所ノ判決按テ不適當ト思量スル時ハ直ニ司令官ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得

陸軍卿ハ死刑ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士官ノ重罪ニ係ル者ハ上奏シテ命ヲ請フ可シ

第七十條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士録事法廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士長其宣告ヲ為ス可シ

其重罪ノ刑ハ兵隊整列ノ前ニ於テ其宣告ヲ為ト可シ但隊外ノ者ニ係ル時ハ死刑ヲ除ク外法廷ト於テ宣告ス可シ

第七十一條 關席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會

議ノ門前ニ揭示ス可シ

第七十二條 押收ノ物件及ニ犯人ノ手ニ在ル贓物ハ照會之ヲ所有主ニ還付シ其毀棄ス可シ没収品ハ其處分ヲ為ス可シ

第七十三條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ第六十四條ノ權限ニ拘ハラズ直ニ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得

第七十五條 軍團師團旅團ノ長若クハ合圍ノ地ノ司令官ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得

第七十四條 行刑ニ関スル方法ハ陸軍卿別ニ之ヲ  
定ム

第七十五條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ  
司令官ハ時宜ニ依リ此治罪法ノ條目ヲ省略執行  
セシムルコトヲ得

元老院ハ達

陸軍治罪法

右其院議定ニ被付候事 十六年六月二十日

元老院稟告

去ル六月二十日下付有之候陸軍治罪法一昨二十四  
日本院會議ニ於テ修正ヲ加フヘキニ決シ別冊議定  
按

勅裁ヲ仰キ候為ノ御上奏有之度候也 十六年七月廿  
六日

元老院上奏

去ル六月二十日下付セラレシ所ノ陸軍治罪法一昨  
廿四日會議ニ於テ修正ヲ加フヘキニ決ス仍テ其修  
正ノ箇所及院議ヲ朱書シ謹テ之ヲ上奏ス 十六年七  
月二十六日

陸軍治罪法

陸軍治罪法目錄

第一章 總則

第二章 軍法會議ノ構成

第三章 軍法會議ノ権限

第四章 陸軍檢察

第五章 審問

第六章 判決



陸軍治罪法

第一章 総則

第一條 陸軍々人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議

ニ於テ之ヲ審判ス

其民事事ヲ受理セス但官物ノ損害ニ係ルノ賠償ハ

此限ニ在ラス

第二條 軍法會議ハ傍聴ヲ許サズ但其宣告ヲ為ス

時ハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ

掲クル者ヲ謂フ

第四條 司令官ト稱スルハ軍團長師團長旅團長軍

管司令官營所司令官及ニ合團ノ地ノ司令官ヲ謂

フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十

四條第十八條第一百條第一條ノ規則ハ此治罪法

ニ於テ之ヲ適用ス

第六條 帰休兵及ニ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍

法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ル

コトヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數箇ヲ設

ク

軍中ニ於テハ軍團師團旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合

團ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第八條 軍法會議ニハ判士長判士理事理事補審事

審事補録事ヲ置ク

第九條 軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官三名理事理事補ノ内一名ヲ以テ判士トス但被告人准士官以上及ニ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照レテ判士長判士ヲ更フ

| 判士長   | 判士  | 被告人       |
|-------|-----|-----------|
| 佐官 一名 | 三 名 | 陸海軍少尉准士官及 |
| 佐官 一名 | 二 名 | 陸海軍中尉及    |
| 中佐 一名 | 二 名 | 陸海軍大尉及    |
| 大佐 一名 | 二 名 | 陸海軍少佐及    |
| 少將 一名 | 二 名 | 陸海軍中佐及    |
| 中將 一名 | 二 名 | 陸海軍大佐及    |
| 中將 一名 | 二 名 | 陸海軍少將及    |
| 中將 一名 | 二 名 | 陸海軍中將及    |

| 大將 | 大將 |
|----|----|
| 一名 | 一名 |
| 中將 | 中將 |
| 大佐 | 大佐 |
| 少將 | 少將 |
| 中佐 | 中佐 |
| 中將 | 中將 |
| 中將 | 中將 |
| 中將 | 中將 |

第十條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿之ヲ命ス尉官ヲ以テ判士ト爲ス時モ亦同シ

第十一條 軍團長及ニ獨立師團長ハ部下ノ將校ニ其軍法會議ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得希シ理事審事決負スル時ハ部下ノ將校ニ命シテ其職務ヲ行ハレノ録事決負スル時ハ下士ニ命シテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得

臨戦若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官部下ノ將校若クハ其地ニ在ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ

置キ被告人ノ官等ニ拘ハラス之ヲ審判セシム但  
將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ヲ補  
充スルコトヲ得

第十二條 軍管軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツ  
可キ將校缺員スル時ハ軍管司令官ノ上申ニ依リ  
陸軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他  
ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ為サシム

第三章 軍法會議ノ権限

第十三條 軍法會議ハ其軍管若クハ師管ノ所管地  
方ヲ以テ管轄ト為ス

第十四條 軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタ  
ル時ハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコト  
ヲ得

第十五條 軍人數箇ノ軍法會議ノ管轄地内ニ於テ  
數次重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ被告人ヲ逮捕シタ  
ル地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十六條 軍團師團旅團軍法會議ハ其團所屬軍人  
ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第十七條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會  
議ニ於テ之ヲ審判ス

第十八條 軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官  
現役中發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス  
其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺  
スル者ハ司法裁判ニ付ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ  
犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之



ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後突覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

第十九條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍ハ人軍屬ト共犯ニ係ル時モ亦同シ

第二十條 軍人ト軍人ニ非ナル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十一條 陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ癸シタル者モ亦同シ

第二十二條 軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ癸シタル違警罪モ亦之ヲ審判ス

第二十三條 陸軍若クハ合同ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審判ニ著手シタル者ハ陸軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

#### 第四章 陸軍檢察

第二十四條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ拾收ス

第二十五條 左ニ記列スル諸官ハ司令官ノ命令ヲ受ケテ陸軍檢察ノ職務ヲ行フ

要塞副官若クハ衛戍副官

憲兵ノ將校下士

衛兵司令

砲兵工兵ノ監護

明治十六年

第二十六條 要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長各遣隊長及之各所管ノ長官ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察官ノ處分ヲ為シ若クハ陸軍檢察官ニ奏シテ其處分ヲ為サシムルコトヲ得

審事其職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察官ノ處分ヲ為スコトヲ得

第二十七條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害セラレタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官被告人所屬ノ長官隊長若クハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ第二十七條ニ記載シタル官吏ニ告

發スルコトヲ得

第二十九條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ重罪輕罪ヲ犯ス者アルコトヲ知リタル時ハ其職務ヲ行フ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ告發ス可シ

第三十條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍檢察官司法警察官憲兵卒若クハ巡查ニ交付ス可シ

第三十一條 司法警察官憲兵卒及ニ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ陸軍檢察官ニ引致ス可シ

第三十二條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ニ受

公文書

ケタル時ハ速ニ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ交付ス可シ

第三十三條 告訴人告發人ハ願下ヲ為シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 陸軍檢察官軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ直ニ犯所ニ臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ為シ其調書ヲ作ル可シ其引致ヲ受ケタル時モ亦同シ

第三十五條 陸軍檢察官要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長各所管ノ長官檢察ノ處分ヲ為シタル時ハ調書ヲ作り證憑文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五章 審問

第三十六條 司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外事件ノ難易ニ從ヒ理事ニ下付シ審事ヲシテ其審問ヲ為サシム若クハ直ニ其判決ニ付ス可シ

被告人上長官以上ナル時ハ軍管司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ具申ス可シ

官所ニ於テ被告人士官以上ナル時ハ官所司令官之ヲ軍管司令官ニ具申ス可シ

第三十七條 陸軍卿審問ノ命令ヲ下ス時ハ其事件ヲ司令官ニ交付シ司令官ハ之ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十八條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官被告人士官等ニ拘ハラス直ニ其審問ノ命

明治十六年



令ヲ下スコトヲ得

第三十九條 審事審問ヲ為ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十一條 審事ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十二條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケ可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ陸軍檢察官若クハ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十三條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應ズル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十四條 審事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ司令官ハ各軍管司令官管所司令官及ニ各控訴裁判所ノ檢察長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

第四十五條 審事ハ被禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ

第四十六條 審事ハ事實審明ノ為メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ為スコトヲ得其處分ヲ為ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十七條 審事ハ事實審明ノ為メ驛遞電信錢道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ第四十六條第二項ノ例ニ依ル

第四十八條 審事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ審事録事ト未ト其所在ニ就テ陳述ヲ聴リ可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

證人若シ遠隔ノ地ニ在スル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十九條 審事ハ被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ為ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作り訊問及ヒ供述録取シ被告人若クハ證人ニ讀示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ

署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ  
被告人及證人ハ其陳述ヲ変更増減ヤンコトヲ請  
求スルコトヲ得

第五十條 審事ハ犯罪ノ性質方法及ニ結果ヲ分明  
ナラシムル為メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ職  
業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑  
定ヲ為サシム可シ

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ニ鑑定ヲ為  
シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推  
測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ

第五十一條 審事ハ證人鑑定人通事ニ當ノ事故ヲ  
證明ヤスシテ其呼出ニ應セサル時ハ二回以上拾  
回以下ノ罰金ヲ科ス可シ但審事ハ其證人ニ對シ

勾引狀ヲ發スルコトヲ得

證人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百八十條ニ  
依リ又鑑定人鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百  
七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

第五十二條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ  
普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フ  
ル時亦審事之ヲ命ス

第五十三條 審事審問ニ於テ餘罪ヲ覺察シタル時  
ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ

共犯ヲ覺察シタル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ  
具申ス可シ

第五十四條 審事審問ヲ終リタル時ハ其報告書ヲ  
作り意見書ヲ添ヘ訴訟文書ト共ニ之ヲ理事ニ交



付シ 理事ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可  
シ

## 第六章 判決

第五十五條 司令官ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書  
ヲ判士長ニ下シ其謄本ヲ訴訟文書ト共ニ理事ニ  
下付シ理事ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ  
判士ニ通報ス可シ

第五十六條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士録事  
各其席ニ著キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム  
判士長ハ先ツ被告人ノ官位勲等隊号職名氏名族  
籍年齢ヲ問ヒ訊問ヲ為スノ旨ヲ告示シ録事ヲシ  
テ審事ノ報告書ヲ朗讀セシム  
其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ

若クハ判士ニ命シテ其訊問ヲ為サシム

第五十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令

狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ為メ其處置ヲ為スコ  
トヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ  
為シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ為サシム可シ  
法廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第  
五章ノ例ニ依ル

第五十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷  
ノ命ニ應ヤサル時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病若ク  
ハ心當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサルコトヲ證  
明シタル時ハ判士長ハ其審判ヲ延期スルコトヲ

得

第五十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走  
シテ審判ノ日時ニ出廷セス若クハ逃走シテ召喚  
状ヲ送達スルコトヲ得サル時ハ闕席裁判ヲ為ス  
可シ

第六十條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚状ヲ受  
ケ審判ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ為ス  
可シ

第六十一條 數人共犯ノ審判ヲ為ス時ハ被告人中  
闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ審  
判ヲ為ス可シ

第六十二條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人  
ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ訊問セシム可シ

證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑  
ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ判士長ハ收禁状ヲ  
發シ更ニ訊問ヲ為シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ  
為サシメ之ヲ司令官ニ具申ス可シ  
其處分ヲ為シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延  
期スルコトヲ得

第六十三條 法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スル  
コトアル時ハ判士長ハ其處分ヲ為シ若クハ判士  
ニ命シテ其處分ヲ為サシム可シ

法廷ニ於テ共犯ヲ覺察シタル時ハ判士長ハ之ヲ  
司令官ニ具申ス可シ

若シ餘罪ヲ覺察シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ  
為ス可シ但判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第六十四條 被告人及證人ノ訊問終リタル時ハ判  
士長ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナ  
キヤ否ヲ問ヒ訊問終リタルノ旨ヲ告ケ被告人ヲ  
退廷セシム可シ

第六十五條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左  
ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事共ニ署  
名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス理事ハ訴訟文  
書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

一有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス  
可キ法律ノ正條ヲ記ス

二無罪ノ判決書ニハ被告事件罪ト成ラサルコト  
及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據尙ハラサル時ハ  
其旨ヲ記ス

三免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト為リタル  
コト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免  
スルコト及ヒ其理由ヲ記ス

四被告人ノ官位勲等隊号職名氏名族籍年齢住所  
及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス

第六十六條 司令官ハ左ニ記列スルノ事件ハ陸軍  
卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス但當所  
司令官ハ士官以上ノ犯罪ハ軍管司令官ニ上申ス  
可シ

死刑

上長官以上ノ重罪輕罪

士官ノ重罪

第六十七條 司令官其判決ヲ不適當ト思量スル時



其專決ノ推アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ推ナキ事件ハ意見ヲ附シテ陸軍卿ニ上申ス可シ

第六十八條 陸軍卿ハ司令官ヨリ具申スル所ノ判決ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ司令官ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得

陸軍卿ハ死刑並ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士官ノ重罪ニ係ル者ハ上奏シテ命ヲ請フ可シ

第六十九條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士録事法廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士長其宣告ヲ為ス可シ

第七十條 朗席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會議

ノ門前ニ揭示ス可シ

第七十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ第六十六條ノ權限ニ拘ハラズ直ニ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得

第七十二條 軍團師團旅團ノ長若クハ合圍ノ地ノ司令官ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得

第七十三條 行刑ニ關スル方法ハ陸軍卿別ニ之ヲ定ム

第七十四條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ

明治十六年

司令官ハ時宜ニ依リ此迄罪法ノ條目ヲ省畧執行  
セシムルコトヲ得

院議 第一條中「其民事ト言ヘルハ刑事附帶ノ民  
事ナル可キモ陸軍々人ニ係ル民事ト解スルノ  
嫌無キ能ハス是レ畢竟其ノ字ノ指斥スル所明  
晰ナラサルニ因ル乃チ本條ヲ二項ニ分チ朱字  
ノ如ク修正シタル所以ナリ

第十一條第一項「若シノ字ヲ又ト修正ヲ加ヘレ  
ハ本法中諸條ニ散見スル所ノ若シノ字ト其用  
方ノ異ニセシニ由ル但シ他ハ都テ上文ヲ承ケ  
右セスンハ左スト言ヘルカ如キ意義ニ宛テタ  
ルニ此ハ加フルニノ意義ニシテ上文ノ事項ニ  
相關セサレハナリ

第十五條中「數次ノ二字ヲ削除シタルハ當ニ其  
無用ノ文字ナルノミナラス之アレハ數箇ノ軍  
法會議ノ管轄地内ニ於テ重罪輕罪ヲ犯セルコ  
ト各數次ナル者ニ非サレハ本條ニ該當ス可カ  
ラサル如キ嫌ニ有ルヲ以テナリ

第二十三條中「臨戰」ノ字ヲ軍中ト修正シタルハ  
臨戰ト言フノミニテハ本法第七條第二項ニ所  
謂軍團師團旅團ノコトヲ脱漏スルニ因テナリ  
第四十八條第二項中「録事ト共」ノ五字ヲ削除  
シタルハ其第三項モ同シク證人ニ係ル正條ナ  
ルニ彼ニハ此録事云々ノ明文有ル無し而シテ  
之ナキモ其録事ト共ニ為サ、ル可カラサルハ  
次ノ第四十九條ニ因テ明瞭ナリ然ラハ則チ之

ヲ存シテ彼此文格ヲ異ニセシヨリハ之ヲ削リ  
テ其体裁ヲ一ニスルノ優レルニ如カサルヲ以  
テナリ。参事院主査  
第二局査査

十月三日

新法ニ依リ禁獄以上ノ刑ニ處シタル軍人軍属罪囚ハ  
集治監ニ送付ス

陸軍省ヨリ會計局各鎮臺ヘ達

新法ニ依リ無期有期ノ徒流刑禁獄ノ刑ニ處シタル  
罪囚ハ集治監ニ送付ノ儀今般内務卿ヘ協議濟ニ付  
現在々獄ノ者ハ裁判宣告書ノ謄本ヲ添ヘ至急取調  
可申出右爾後右ノ刑ニ處シタル者アル片ハ其時々  
可申出此旨相達候事 十六年十月三日陸達